

幼 兒 教 育



第 四 十 卷 一 月 號 第 一 號

東 京 女 子 高 等 師 範 學 校 內

日 本 幼 稚 園 協 會

物進御の月正お 物贈のスマスリク

集話名宿耆三話童の演講前御

【最新刊】岸邊福雄先生新著

▲豪華版中判・三百五十頁・美本
▲口繪肖像三色版入・色刷繪廿一葉
▲定價二圓八十錢 ▲送料十六錢

童話 岸邊福雄先生話集

【十版】久留島武彦先生著

▲豪華版・中判・三百五十頁・美本
▲口繪肖像寫真入・色刷繪二十葉
▲定價二圓八十錢 ▲送料十六錢

童話 久留島武彦先生話集

【五版】巖谷小波先生著

▲豪華版中判・三百五十頁・美本
▲口繪肖像寫真入・色刷繪廿一葉
▲定價二圓八十錢 ▲送料十六錢

童話 巖谷小波先生話集

凝り性で一言一行も忽にせぬ岸邊先生は一代の力作を御前集漸く出来。初め、岸邊翁生涯の代表名作話二の十一篇を精選し、無鑑配する清水畫伯の挿繪を以てす。

童話壇上四十年の間、傑作長幼十三話を選りて久留島十八番物とし、自ら更に修正をとり、其の悉く名壇上の形式にあらたに詳述する。

小波先生は、幼少のころから、物語の才を著し、其の長篇幼演の精選名話を、初め、岸邊翁生涯の代表名作話二の十一篇を精選し、無鑑配する清水畫伯の挿繪を以てす。

巖谷小波先生は、幼少のころから、物語の才を著し、其の長篇幼演の精選名話を、初め、岸邊翁生涯の代表名作話二の十一篇を精選し、無鑑配する清水畫伯の挿繪を以てす。

兌發

東洋圖書株式會社

東京 東大

東京市神田區神保町一丁目【替振】東京一〇三〇七番
大阪市南區堂安寺一丁目【替振】大阪三九五七番

賀 正

日本幼稚園協會

昭和十五年元旦

生徒募集

本科生 四十名 研究生 若干名

願書受付三月二十日迄規則書は參錢切手
封入の上申込まれよ。

創立以來廿五年。

大正五年東京市麴町區に創立。

昭和二年武藏野の中なる現在地に新築、

附近に森あり、野あり、川ありて四時自

然の恩恵を受け、本校の特色とする自然

觀察、博物採集、圖畫寫生、自然物應用

の手工等材料豊富なり。

玉成保姆養成所

所長 ソファヤ・アラベラ・アルウ井ン

東京市杉並區西高井戸一丁目一三三

省線 西荻窪下車直南約五丁

生徒募集

一定員 七拾名

一出願期限 三月末日迄

規則竝ニ入學案内ハ三錢切手封入申込マレタシ

東京市品川區大井原町五二〇八(省線大井町驛ヨリ城南バ
スニテ原停留場下車二分)

東京昭和保姆養成所

所 長 土 川 五 郎

顧問兼講師 倉 橋 惣 三
東京女子高等師範教授

保姆生徒募集

一、定員 六十名

一、卒業 一ケ年

一、特典 無試験檢定ニテ保姆免許狀ヲ授與セララル

一、入資格 高等女學校卒業ノモノ(但シ聽講生ニハ資格ナシ)

一、期日 二月一日ヨリ願書受付ク

詳細ナル規則書等入用ノ方ハ參錢切手ヲ同封シテ請求セラレタシ

東京市淀橋區下落合三丁目一、三八八

東京目白保姆學校

電話、落合長崎二、五五九番
振替口座一〇一、八三七

生徒募集

△定員 六十名

△保姆無試験檢定

△締切 三月二十日

△寄宿舎完備

佛教保育協會

中野保姆養成所

東京市中野區宮前町 電話中野五八七〇番

△帝都ノ名刹中野寶仙寺境内ニ同寺經營ノ中野高等女學校並
感應幼稚園ト共ニ併設セラレ環境ノ清澄ト設備ノ完備セル
ハ本所ノ誇リデアアル

△交通ハ省線新宿驛ヨリ五分

△學則請求要三錢

幼兒童話及幼兒唱歌募集

— フレーベル賞による懸賞募集 —

先年株式會社フレーベル館高市社長より同館創業三十周年記念として、保育資金一千五百圓を全國保育界に對して提供せられ、その使途につき本會に委託せられましたことは度々本誌上に御報告申上げた通りであります。よつて本會はそのため特に實行委員諸氏を御委嘱し、協議の上、童話手技等の懸賞募集を行ひ來り、いづれも好成績を擧げましたことも御承知頂いてゐるに存じます。今回は更に募集範圍を擴大して、幼稚園の方々の外、小學校教育御關係の方々にも御應募を乞ふこととしました。廣く多數の優秀作品を得たいと期待して居ります。左の規定により盛に御應募下さるやう願ひます。

(一) 童話募集規定

— 應募作は幼兒に適する童話たること。

— 主題、内容、長短は隨意。

— 幼稚園、託兒所保母諸君及び小學校教員諸君の自作たること。(舊作にてもよろし)

— 應募篇數任意。お一人にて兩方に應募せらるゝこと素より任意。

— 原稿紙にペン書のこと。

— 應募者は宿所、氏名(誌上匿名隨意)及び奉職園校の名稱、所在地を明記のこと。

— 日本幼稚園協會(東京市小石川區東京女子高等師範學校附屬幼稚園内)童話募集掛宛のこと。

— 締切 昭和十五年二月末日

發表 昭和十五年六月一日本會發行の「幼兒の教育」誌上。

入選作は本誌に掲載し、賞狀及賞金を贈呈します。

フレイベル賞

一等一名金參拾圓 二等一名金貳拾圓 三等一名金拾圓 選外佳作若干名(賞品贈呈)

審査 (五十音順)

小川未明氏 及川ふみ氏 岸邊福雄氏 倉橋惣三氏 葛原 蘭氏 久留島武彦氏

原稿は一切返却しません。

尙御不明の點は往復はがきで本會童話募集掛宛お問合せ下さい。

(二) 幼兒唱歌募集規定

應募作は幼兒にうたはせるに適するものたること。

主題、内容、長短は隨意。

幼稚園、託兒所保姆諸君及び小學校教員諸君の自作たること。(舊作にてもよろし)

應募篇數任意。お一人にて兩方に應募せらるゝこと素より任意。

原稿紙にペン書のこと。

應募者は宿所、氏名(誌上匿名隨意)及び奉職園校の名稱、所在地を明記のこと。

日本幼稚園協會(東京市小石川區東京女子高等師範學校附屬幼稚園内)幼兒唱歌募集掛宛のこと。

締切 昭和十五年二月末日

發表 昭和十五年六月一日本會發行の「幼兒の教育」誌上。

入選作は本誌に掲載し、賞狀及賞金を贈呈します。

フレイベル賞

一等一名金參拾圓 二等一名金貳拾圓 三等一名金拾圓 選外佳作若干名(賞品贈呈)

審査 (五十音順)

小川未明氏 及川ふみ氏 岸邊福雄氏 倉橋惣三氏 葛原 蘭氏 久留島武彦氏

原稿は一切返却しません。

尙御不明の點は往復はがきで本會幼兒唱歌募集掛宛お問合せ下さい。

昭和十五年一月

東京市小石川區東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

靜寛院宮幼時の御姿に擬せ「鏡様」人形の頒布



「女子ノ身ヲ以テ國難ヲ匡濟スルノ用ニ供スルコトヲ得バ水火ノ中ニ投ズルモ辭セズ」ニ悲壯なる決意を以て、徳川十四代將軍家茂公に御降嫁遊ばされたる和宮様、後の靜寛院宮様こそは、洵に我が殉國犠牲の象徴にして、又その貞烈淑正の令徳は萬代婦道の典型として國民齊しく仰ぎ奉らねばならぬことであります。

今回本會に於ては宮様御婦徳宣揚の一助として「鏡様」人形を廣く同好の士に頒布することにいたしました。此の御人形の原型は宮様の側近者を出せる正六位法有字家所藏にかゝる由緒深き御人形にして、人形製作の大家山田徳兵衛氏が謹製したるものであります。尙此の御人形の原型は國定教科書小學國語讀本卷十二にも登載され宮様の尊容を思ひ奉る史料の確實なるものはこれ以外にはないのであります。又本人形の添書中には宮様の御眞蹟の對鏡の御歌を奉載し、題字は御宗家徳川公夫人泰子の直筆にかゝるものであります。

冀くば江湖の諸賢の御贊同により廣く一般家庭・幼稚園・小學校・女學校等に奉安されんことをおすゝめ致します。

「鏡様」人形

推薦 倉橋惣三

幼稚園の雛棚へ「鏡様」を加へたいものです。飾るには一番上の段、親王様のお近くの方へならべて飾るのが正式だと、その道の人に教へて貰ひました。昨年も澤山御希望がありました。皆さんの幼稚園にも今年からは是非、お薦めします。

御身長 鬚先まで 曲尺六寸五分
黒塗臺 及び桐箱付

金拾八圓也

送料 東京市内 十二錢
内地一般 二十一錢

樺太・臺灣 六十二錢
朝鮮・滿洲國 十八錢増
但し代金引替の場合

頒布先

東京市芝區芝公園増上寺中

財團 靜寛院宮奉讚會
法人

取次所

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

日本幼稚園協會

電話 大塚 三一四二番
振替口座東京 一七二六六番



第 四 十 卷 幼 兒 教 育 第 一 號

目 次

屏	人的資源の涵養と保育	下村 壽一 (一)
	幼児と俱に皇紀二千六百年を迎ふ	倉橋 惣三 (二)
	建國神話と日本精神	蘆谷 蘆村 (四)
	幼児の發育形態に就て	竹内嘉兵衛 (九)
	新年の童謡	葛原しげる (一七)
	子供の咳	竹内 薫兵 (二五)
	御初穂にひびく	大浦 キミ (三〇)
	家具、園具の修理法	山 形 寛 (三六)
	簡単な手技	及 川 ふみ (四二)
	幼稚園の水	杉 山 米子 (四九)
	月刊「幼児の母」の計畫に就て	倉橋 惣三 (四四)
	幼児の母	會 根 保 (四〇)
	幼時の追憶	津田 芳雄譯 (五)
	ハイデイ——ヨハンナ・スピリ原作	

〔最新刊〕

幼稚園の園

生活

大和郷幼稚園

坂内ミツ先生著

四六判上製・函入全一冊
定價・一〇五〇・送料一〇

天真爛漫神のやうな子供達、幼稚園の生活はたゞ見れば明るい幸福に満ちあふれてゐます。然しこの天使のやうな子供達の指導はなんと難かしいこととせう。

著者はこの同じ立場にある人々のために廿餘年間の體驗から得た秘訣を公にされました。大きな慈愛に輝き、細心の注意に充ちた本書は皆様の疑問、悩みをたちどころに解決するてせう。

一次目要主一

一	幼稚園の目的及必要
二	私の理想とする幼稚園
三	幼稚園の組織
1	先生(保姆)
2	幼児
3	園舎
4	設備
5	編成
6	一日の生活

四 良い幼稚園

五 保育上の注意

1	觀察
2	談話
3	唱歌
4	手工
5	遊び方
6	遊戯
7	躰方
8	年中行事
9	自由遊び

六 結論

幼稚園教育論

法政大學 教授 城戸幡太郎先生著

【最新刊】 一・八〇
下・一四

興亞日本の建設發展のために輝ける本書を全保育人に贈る！

健全なる國民の育成こそは幼児の保育よりスタートせねばならぬ。強く正しく導くために、幼児教育の新組織を樹立し、全問題を解明した最も科學的な幼児教育論である。

【内容見本呈呈】

東京電振 京話替
神九段 田段三
神四三 田段四五
ソ一四 橋六八
橋六一

賢文館

幼 児 の 教 育

昭和十五年一月



年の始めの巻頭を飾るに、何といふ適した繪であらう。もとより頼んで描いてもらったのではない。汽車を描いても、お囀子を描いても勝手な自由畫題にあつて、こゝにいふ繪が描かれたのである。母につられてのお詣りか、或はふとした通りすがりだが、恐らく、いつも敬禮をして通り過ぎる鳥居前なのであらう。奉仕隊の静かなつゝましい行動に、子どもながらに曳きつけられてゐるのである。

子どもらしい敬虔な心もちが、どこといふことなく畫中に感じられる。立ち止つてそつと見てゐるやうな謙遜な心もちも、どこといふことなく籠つてゐる。お掃除が済んだら、神殿に近く頭を垂れたい仰高の心もちさへも、しつとりと滲み出でゐる。——

ひとりで鳥居の下をあらうとする子ども、それは此の小さい畫家自身の後姿なのでもあらうか。いつれにしても、子どもの心の中には、斯ういふ繪を自然に描き出づる心があるのである。貴いことである。

人的資源の涵養と保育

會長 下 村 壽 一

近頃人的資源の涵養といふ語が興亞の合言葉として各方面に流通してゐる。これは東亞新秩序建設の大業を完遂する爲には金も器材も固より必要であるが、それよりも人の力人の数が更に必要であるから、兎も角も「生めよ殖せよ」で、大に人口の増加を圖らなければならぬ時代の叫びであるを速了してゐる向がないでもないやうである。併しそれは餘りにも短見であつて、材質のよからぬ内容も粗雑な毀潰的人間が幾ら殖えても、それは唯興亞の大業の足手纏ひなるばかりで、國家の蒙る迷惑は此の上もないことであるから、「生めよ殖せよ」の外に「立派に育てよ」の一語を附け加へて、本當に健全有爲なる國民育成に努めなければ、單に頭数を殖やすだけでは、全然無意義否寧ろ有害と言ふの外はないのである。かくて教育は國策の基礎であることは如何なる場合にも眞理であつて、興亞の原動力たる人的資源の涵養も、教育が根柢にならなければ決して花を咲かせ實を結ばせることは出来るものではない。教育の分野の中でも幼児の保育は、人の一生を通じて最根本的な影響を心身兩方面に及ぼすものであるから、「立派に育てよ」の責任の大半は保育の仕事の上にかゝつてゐるを申ししても決して過言ではあるまい。斯様に考へるに保育従事者の任務は直接には時局に縁遠いやうに見えるけれども、實は聖戰の目的達成の爲最根本的な重要な國策を遂行すべく、水鳥の足のやうに表面に現はれぬ不斷の努力を捧げつゝあるのであつて、この努力が今後幾年かの後、八紘一字の雄大な國策完成の事實となつて酬ひられることを吾等は確信を以て待望するものである。

幼兒と俱に皇紀二千六百年を迎ふ

倉橋惣三

この目出度い皇紀二千六百年を、たなびく雲の美しい高き嶺に登つて迎へやうか。打ち寄する波も靜かな廣い磯に出て迎へやうか。おもへば同胞は、まごころにいろくさままぐの處に、この年を迎へてゐるごころであらう。その中でも、戦塵の裡に迎へ、殊に彈雨の下にさへ迎へてゐるであらうわれらの將士こそ、最も意味深く此の年を迎へてゐる人々であるが、その他の何人こそ、この年をこそ、それらの意義を以て迎へないものはない。そして、悠久二千六百年の過去こそ、更に悠久なる國の永遠の間に立つて、誰れも、身のひきしまるを覺えないものはないであらう。而してわれらは、いつもの通り、幼兒達の間にあつて、その子らこそ之れを迎へてゐる。

こゝには、嶺の上の如く氣の澄める高さもない。磯のほざりの如く波の音つゞく廣さもない。平坦があるばかりである。さゝやかさがあつてばかりである。人をして仰がしむるものもなく、展望せしめるごころもない。謂つてみれば、平穩と和親と、明朗と純真との陽だまりがあるだけである。しかし、こゝには生長があり、發達があり、將來がある。今高からざれど伸びゆく力あり、現に廣からざれど擴がりゆく勢あり、未だ小なれども大なるべき希望あり、一切を明日に約して一毫疑ふごころがない。われらは、そうした中に立つて、此の意義深き年を迎へるのである。

二

子ごもと俱にゐるものは、子ごもによつてのみ自己を生かす。又、子ごもによつて、自己を生かされる。皇紀二千六百年といふ此の年の深い大きい意義をも、子ごも達に於て生かさうとする。數へれば遠い久しい年月であるけれども、それ

は、つまりは、子ぎもに繼がれ、子ぎもに繼がれて來た年月に他ならない。其のいつの年にも、幼き者は幼き者として居り、その生長を發達せにつれて、年は重ねられつゞけて來たのである。上、皇室の御代々は言ふも畏し、億兆の臣子、皆、その子を育て、御代に仕へて來たのである。今も亦そのまゝがつゞけられてゐるに他ならず、それが、われらの責務として課せられてゐるに他ならない。すなはち、われらは、幼き者を通して、悠久の歴史を、更に悠久なる國の永遠にないでゆきつゝあるのである。

斯く想ふ時、われら子ぎもを俱にゐるものゝ、世にも生き甲斐のある生活を幸福とせざるを得ない。たゞに一人々々の子を、その個人の完成に遂げしめるだけでも、喜びは大きい。それが、國の歴史の繼承者たらしめるのである。二千六百年がそうであつて來た通り、更に將來もそうである。而してそれは空想でも、理想でもなく、現に今、わたしの傍にゐるものに於て、それが成し上げられるのである。至幸といはざるを得ない。

このよき年を記念して、種々の計畫が世に行はれる。皆誠心である。いづれも貴い。その範圍の廣く、企ての壯ならんことを期して已まない。しかも、幼兒を俱にゐるものは、幼兒に於て常に記念品をのこしつゝあるのである。彼等を健全にし、その發達を完からしめることそのことに記念事業がある。

三

皇紀二千六百年、感激胸に溢れる。いざその感激を以て、子等を一層強く抱いてやらう。一層周到に行き届いてやらう。一層高く導いてやらう。そして、今日を一層よき明日につき、この二千六百年を、更に、動の二千六百年としての意義に充實せしめやう。

(附記) これは幼兒を俱にゐるものゝ、この年の心の一番の底を申したのです。この心はこの心として、所謂記念事業をいつたことが、幼稚園にいらぬといふ意味ではありません。そういふことを思はれたら、大きな誤解です。折角此の目出度い年にめぐりあはせた喜びは、いろ／＼の形さもなつてあらはしたいし、あらはれずゐられないことでもあります。皆さんも、それ／＼御計劃が、たんざあることゝ思ひます。そして、それ等の記念物、記念事業は、それを通して、子ぎも達に、いゝ教育にもなることです。大に祝ひませう。その祝意を形にもあらはしませう。後々にもそれを残しませう。たゞその底に、幼兒を俱に今年を迎へる者の特別な心持ちを見落さないやうにしませう。

建國神話と日本精神

蘆谷 蘆村

四

日本精神を申しますのは、觀念的、抽象的な、雲をつかむやうなものではありません。我々の祖先の生活の中にはつきり現れ、具象化されてゐるものであります。その祖先の生活や事業は、何によつて知ることができるかを申します。建國の説話であります。建國説話によらずして、日本精神を知らうといふことは、木に縁つて魚を求むるよりも難いことであります。

建國説話は「古事記」「日本書記」に主として收められてをります。日本の古代の歴史は蘇我氏の亂の時に大部分焼失しましたので、其後に残つてをつた史料や、口傳によつて編んだものがこれらの書物であります。その中「日本書記」は比較的史書らしい體裁を成してをりますが、參考として多くの素材を正直に編纂配列してあり、「古事記」はまつた多くの口傳を材料としたもので、この二書相互に、また同一の書の中にも、矛盾があり、脈絡を缺いてをります。このやうな矛盾、亂雜の中に却つてありのまゝの、昔の姿がうかがはれるので、立派に完成した史書よりは、此の方がよ

いのであります。しかし一般人が、かうした讀物の中からまごまつた概念を得ることはなかく骨の折れることでもありますから私はこゝに、建國説話の中にあらはれてゐる日本精神について少し卑見を述べて見ませう。

建國説話の一ばんすぐれた特色は、アマテラスオホミカミを中心とすることであります。アマテラスオホミカミは日神にまします。日本國は、日神の國であります。凡そ宇宙の間に、日ほぎ貴いものがありませうか。太陽なければ萬物がありません。地上のありまあらゆる物ミ力の根源は太陽であります。この太陽を以て民族の神とし、理想とし、象徴したところから我等の祖先の民族的性格の偉大さが窺はれたのであります。

太陽は萬物の根源であります。一切のものを包容し、生かしてゆくのが太陽であります。日本精神がそこにあります。この理想がわが國史を通じて流れてをります。「八紘一宇」の精神がこれであります。五個條の御誓文の精神もこれであります。

建國説話は、我々の祖先の、さうした立派な精神を雄辯に語つてをります。外國の建國の歴史を見ますと、大抵は強い民族が弱い民族を討伐し、あるひは主義や、立場を異にするものが相争うて、敵を根こそぎ討ち亡ぼすといふやうな鬭争の歴史で、血なまぐさい記事に満ちてをります。

日本の建國説話は、さういふ民族的鬭争の歴史ではありません。イザナギ・イザナミの二神が、宇宙の主宰者として生みたまへる日神が、その廣大無邊の御徳を布き行ひたまふために、天孫を此世に下したまうたのであります。さうして、此國に住んでをつた國津神も、ひさしくイザナギ・イザナミ二神の末でありますから、その御神慮を體して、天孫を奉戴し、天業を翼賛したてまつたのであります。

それでありますから、建國説話には、外國の建國譚には見るここの出来ないエピソードに満ちてをります。たゞへば、オホクニヌシノカミが、此土を天孫におゆづりになつた國譲りの話をごらん下さい。オホクニヌシノカミは御先祖ササノヲノカミ以來、非常な御努力を以て國土を經營せられ、勢威隆々としてならぶものなく、其の武備の優秀なることも當時ならびないものであります。天孫の御降臨に際しては、何の未練もなくその國土を献上せられ、自らはたゞ精神界（宗教界）のこごだけをお掌りになりました。しかししてアマテラスオホミカミさまにはいはゞ被征服

者であるオホクニヌシノカミのために、天孫を全く同じ宮殿を造營し、あらゆる優遇をなし、その上に大神御自身の御子であるを傳へられるアメノホヒノミコトを、その宮の長官として仕へしめられたのであります。このやうなこごは外國では、おはなしにも決してないのであります。さういふお話が残つてゐないといふこごは、さういふ事實がなかつたこごを示すばかりでなく、又、國民にさういふ精神、さういふ理想がなかつたこごを示すものであります。外國における、征服された主權者の實際を見れば、このこごは思ひ半ばに過ぐるであります。

このやうに寛厚な、太陽精神をもつて降臨せられた天孫は容易に九州を皇化にうるほはしめたまひました。日向三代の御事蹟の中には、ほんご戰鬭の記事はないのです。そしてお伽ばなし風な説話の中に、その頃日本の山岳地帯に大勢力をもつてゐたオホヤマツミノカミの子孫、海岸地方に大勢力をもつてゐたオホワタツミノカミの一族が、こごごごく皇化にしたがつたこごが暗示されてをります。それはニギノミコトの妃コノハナノサクヤヒメが、オホヤマツミ族より出でたまひ、ヒコホホデミノミコトの妃トヨタマヒメ、ウガヤフキアヘズノミコトの妃タマヨリヒメが、こごにもオホワタツミ族よりいでたまへるこごによつて知るこごができるのであります。

神武天皇の御東征は、イザナギ・イザナニ二尊の御理想、アマテラスオホミカミの御精神を恢弘して、日本全土に天業をおしひろめたまふためでありました。そのためにはながい御準備が要りました。不幸にして、天孫民族の一人であつたニギハヤビノミコトの御打合せが行届いてゐなかつたのに、そのニギハヤビノミコトが頑冥固陋なナガスネヒコに御關係のあつたために、平和の裡に大和にお入りになることができず、大きな犠牲を払はられ、一年近くも戦争がつゞきました。しかし、この位の戦争は、外國の建國神話なごでは問題にならぬ位のものであります。しかも天皇には、まつろはぬ悪者ごもは誅伐したまひましたが、驛き従ふものは一視同仁の愛を垂れたまひ、すこしも御差別をなさいませんでした。オトウカシ、オトシキなごの酋長は戦後重い役目にさりたてられてをります。また、たごへ天孫民族ではあるさいへ、一旦は皇命に抗拒したニギハヤビノミコトを優遇なされ、その子ウマシマテノミコトを元帥さなしたまひ、その子孫は世々武門の棟梁さなつたのであります。まごごに、大きく、ひろやかな太陽精神のあらはれではありませんか。天皇の御立后にあたつても、出雲民族であるヒメタタライスズヒメを選びたまひしごごき、國民に對して何等差別的なお考がなかつたごごを物語るものであります。

このやうな、大きな、ほがらかな精神を以て建てられた國であればこそ、それから後、朝鮮、支那の民が争うて皇化を慕ひ、來朝歸化し、その文學や技藝を以て、新らしい文化の建設に貢獻したのであります。わが國がこの太陽精神を以て立つかぎり、世界のすべての美しく善きものは、わが國に鍾まり、そこに生き、榮えるであります。長い間の武門の政治、封建制度は、國民の心を偏狹にし、多分に太陽精神を奪ひ去り、主義を立て、朋黨を立て、相争ひ相凌ぐやうになりましたが、皇紀二千六百年を迎へて、今こそ我々はほんたうに太陽精神に復らなければなりません。さうして、このおほらかな、ほがらかな太陽精神こそは、殊に、保育事業の根本をなすべきものであるご思ひます。

つぎに建國説話のすぐれたる特色の一つを申しますと、その現實的精神であります。日本の神話の神々は、外國の神話の神々とは本質的にちがひます。私たちの神々は私たちの血をついだ祖先であり、人にして神たる方々であります。外國の神話の神様は人間でなくして、超人間的なものや動物や妖怪が多いのであります。ある神様は牛です。ある神様は猿です。ある神様は牛頭人身です。ある神様は蛇身人首です。ある神様は首が十もあります。ある神様は羽根が生えてをります。かういふ風な動物や、妖怪を、人間

以上に崇拜する民族が、人間としての完全な生活をなし得る筈がありません。それは人生の價値を信ぜず、したがつて人間としての生活の理想をもたないからです。印度人は、今日でも牛を神様として崇拜し、決して牛の肉を食べないばかりでなく、牛を打つことさへできません。最近のことですが、カルカッタの町の大通りで、二疋の牡牛が喧嘩をはじめました。これを引き分ける土民の怒を買ふので、さうすることもできません。電車も自動車も立往生をし、つひに一時間町の交通が杜絶しました。田舎へゆく牛の厩舎には花や香を具へ、その尿を糞として用ひ、糞を乾かして神聖な餅をつくりまします。このやうな國民が、民族的に墜落し、衰亡するのは當然であります。神話は大切なものではありませんが、不健全な神話のあたへる害毒はこの通りであります。

しかるに、我が國の建國神話には、このやうな非人間的非現實的な要素がすこしもありません。その神々はすべて人間性をそなへたまへる神々です。それですから我々の祖先は、人生の價値を信じ、生き、働き、努力することの光榮をほこつてをりました。さうして、その模範を示したまへるものは、アマテラスオホミカミさまであります。

ウケモチノカミ(一名オホゲツヒメ)が殺されておなくなつた時、その五體から米や麥やさまゝの穀物また

蠶や桑などが生じました。大神にはそれを高天原におさりよせになり、天の狹田、長田をつくらせ、天邑君を定めて農業をおはじめになり、また、天機病をおつくりになり、機女さきもに機織をなされました。このやうな貴い神話は、外の國には決してありません。外の國の神話の神様たちは、みな戦争か、歌舞か、酒宴か、戀愛を仕事としてをります。ひこり、まじめな農耕を、天地の主宰たる神様がお親らあそばされるさいふのは、日本の神話のみに見られることで、いかにわが國の神話が、本質的に卓絶してゐるかがうかがはれるのであります。かうした貴い傳統が、日本人を、勤勉、力行の民にしてゐるのであります。わが國は、氣候溫和、地味豊沃ではありますが、山がなく、耕地が少なく、暴風雨や地震の災害多く、天産も決して豊かではありません。それにもかゝはらず、よく天災を克服し産業を振興して、今日のやうな隆々たる國勢を築くに至つたるは、まつたく、天祖以來の、傳統的な現實主義、勤勉力行の精神のためものであります。

このウケモチノカミの身を殺して仁を成したまへる御精神ミ、米穀を生みたまへる御功業ミを、アマテラスオホミカミには深く御嘉賞あそばされ、その御靈を奉祀し、天孫の御降臨に際しては、三種の神器さきもにその御靈代をお傳へになりました。今日、伊勢の外宮すなはち豊受大神宮

にまつられたまふのが、この神であります。學童の伊勢參宮に、必ずおまゐりはしてきますが、何故にウケモチノカミガこゝにお祀りしてあるか、そのいはれを十分に學ぶものの少ないのを残念に思ひます。今日、食糧問題が、このやうに切迫してゐるにつけても、天祖以來、國民の生活のために、いかに大御心を勞したまひしかを子供に語り聞かせ、食物を大切に、報恩感謝の心をやしなはしめることが一層必要であると思ふのであります。

最後に申し上げますことは、建國神話を、たゞ一つづゝ切り離して、断片的に話すだけでは、たゞのおはなしにすぎぬものになります。全體としてお話になることはできないにしても、全體に通曉し、全體を通ずる、上述のやうな日本精神を把握して、全體の一部分として話すこいふやうなお心がまへが、ごなたにも必要であるご存じます。それにつけても、苟くも教育の仕事にお當りになる方は、建國説話をよくよく讀んでいただきたいのであります。

保育實習科生徒 募集について

今年度の東京女子高等師範學校保育實習科生徒募集の大略は次の由にきいて居ります。

(編輯部)

募集人員 凡二十四名

出願期限 二月一日より同月廿九日まで

試験期日 三月七、八日頃

官報廣告 一月十日頃

委細は東京女子高等師範學校教務課(東京小石川區大塚町三五)につきその詳細の點をお聞き下さい。

◀ 幼 兒 の 發 育 形 態 に 就 いて ▶

東京市麹町幼稚園長

竹 内 嘉 兵 衛

子供が大きくなれば、大人になることは、間違ひのない事實であるけれども、それを逆に大人を縮小して考へて見たところでそれが子供ださいふ事實にはならない。望遠鏡をさかしまにして大人を見るに丁度子供と同じやうに見える、世間の親達が兎角こんな錯覺で我が愛兒を見てゐるのではなからうか……。

一、子供の體形はすべて小さい頭も、體も、手も、足も、また臓器も、それが、年月と共に順を追ふて、小から大に弱から強へ成長増大するものであるといふやうに考へるならば、それは大なる過誤であるといはなければならぬ。

子供の發育體形を仔細に研究調査して見るに、年齢によ

つて部分的の發育に特殊性を有してゐる事が見出される。即ち或る部分は園兒時代にて既に大人に近い形態にまで發

第一頭部發育狀態

(1) 頭圍表(糎)

四 歲		五 歲		六 歲		七 歲		八 歲		九 歲		十 歲		十 一 歲		十 二 歲		大 人	
女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
四九・九五	四八・五〇	五一・五六	四八・七〇	五一・七六	五〇・〇五	五一・〇〇	四九・七〇	五一・一〇	五〇・〇〇	五一・七〇	五〇・六〇	五一・四〇	五〇・八〇	五一・一〇	五一・四〇	五一・八〇	五一・五〇	五五・〇〇	五五・〇〇

(2) 左右徑表(糎)

四 歲		五 歲		六 歲		七 歲		八 歲		九 歲		十 歲		十 一 歲		十 二 歲		大 人		
女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	
一四・六五	一四・〇一	一四・四〇	一四・二一	一四・六〇	一四・〇九	一四・七〇	一四・五〇	一五・〇〇	一四・九〇	一五・一〇	一四・五〇	一四・五〇	一五・一〇	一四・九〇	一四・八〇	一四・七〇	一五・〇〇	一四・七〇	一五・八〇	一五・二〇

育し、又或る部分は學兒年齢に於て特別なる増大を來たす

のである。一例を擧げて見るに子供の頭部である、大きな

(3) 頭前後徑表(糶)

大人	十二歳		十一歳		十歳		九歳		八歳		七歳		六歳		五歳		四歳		
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	
	一八・二〇	一八・九〇	一七・一〇	一七・六〇	一七・三〇	一七・七〇	一七・〇〇	一七・七〇	一六・九〇	一七・五〇	一六・九〇	一七・二〇	一六・九〇	一七・四〇	一六・四七	一六・三〇	一六・九一	一五・七〇	一五・九〇

(4) 顔長表(糶)

大人	十二歳		十一歳		十歳		九歳		八歳		七歳		六歳		五歳		四歳		
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	
	二四・三〇	二四・九〇	二二・三〇	二二・七〇	二二・三〇	二二・二〇	二一・九〇	二二・九〇	二二・七〇	二二・九〇	二二・三〇	二二・四〇	二二・三〇	二〇・八〇	二一・八〇	二〇・五〇	二一・〇一	二〇・〇二	二〇・五〇

頭を繪がいて、それに小さな體ミ手足をつけるに幼児の繪に見えるやうに子供の頭部形態は非常に發育が早期に行は

れる。今本圖に於て測定したる表を掲げて參考とする。

子供の頭部が、どんな發育過程をたぎつてゐるかを第一表頭圍によつて檢討して見るに、四歳の園児の頭圍は、男子は四九・九五糶、女子は四八・五〇糶で、小學校十二歳の男子は五二・一〇糶、女子は五一・八〇糶である。其の差は男子に於て三・三〇糶で十年間に僅か二・乃至三糶の増加を示して居るに過ぎない。之を大人に比較して見ても四歳の幼兒ミ大人ミは男子で五・五五糶、女子で六・五五糶増加してゐるだけである。

要するに頭は幼年期に於ては非常に發達するが、四歳以上になるに殆んぎ増大しないさいふこことが分る。

第二表の頭左右徑に就いて調べて見るに四歳の男子は一四・六五糶女子は一四・〇一糶で、十二歳の者は男子は一五・〇〇糶、女子は一四・七〇糶で其の差は男子は〇・三五糶、女子は〇・六九糶さいふ僅かなものである。

又大人ミ比較して見ても大人の男子は、一五・八〇糶、女子は一五・二〇糶であるから其の差は男子が一・一五糶、女子が一・一九糶であつて、其の發育増加は極めて微弱であるさいふこが出来る。

第三表頭前後徑について見ても四歳の男子は、一五・九〇糶、女子は一五・七〇糶で十二歳の男子に於ては一七・六〇糶、女子に於ては、一七・一〇糶であるから其の差さいふも

のは、男子は一・七〇糎、女子は一・四〇糎の小さい数である。又大人に比べて見ても、其の差は男子で三・〇〇糎、女子で二・五〇糎に過ぎない。

第四表顔長について比較して見るに、四歳の園児は平均男子が二〇・五〇糎、女子が二〇・〇二糎で、十二歳の男子二二・七〇糎、女子の二二・三〇糎の差は、男子では二・二〇糎、女子では二・二八糎であつて、矢張僅かなものである。

大人は男子が二四・九〇糎、女子が二四・三〇糎である故其の差さいふものは、男子で四・四糎、女子で四・二八糎に過ぎないのである。

以上は形態的外部測定を比較したものであるが、これを醫學者の研究した解剖的腦髓の重量について比較して見るのも事實を知る上に於て必要だと思ふから次に掲げることにする。

第二腦重量發育狀態

(1) 標準腦重量表(瓦)

生後—五ヶ月	六ヶ月—一年	一年—五年	六年—一〇年	一年—一五年	一六年—二〇年	二一年—三〇年
男	女	男	女	男	女	男
四五〇	四〇〇	六五〇	七五〇	一〇五〇	一〇〇〇	一二五〇
男	女	男	女	男	女	男
四〇〇	三五〇	一五〇	二五〇	二五〇	三三〇	四〇〇
女	男	女	男	女	男	女
二五〇	二〇〇	一五〇	一〇〇	一〇〇	一四〇	二一五〇

(2) 腦重量表(吉澤氏に依る)(瓦)

生後—五ヶ月	六ヶ月—一年	一年—五年	六年—一〇年	一年—一五年	一六年—二〇年	二一年—三〇年
男	女	男	女	男	女	男
四三四	三七一	六二八	七三九	一〇六五	九九一	一二六七
男	女	男	女	男	女	男
三七一	二六七	一七五	一三三	一三三	一八〇	二六二
女	男	女	男	女	男	女
二四二	二〇二	一四〇	一三六	一三六	一六二	二四二

(3) 腦重量表(長與氏に依る)(瓦)

一年以内	一年—五年	六年—一〇年	一年—一五年	一六年—二〇年	二一年—三〇年
男	女	男	女	男	女
六四九	五四〇	一〇五六	一〇一六	二八四	二八四
男	女	男	女	男	女
五四〇	一〇五六	一〇一六	二八四	二八四	二八四
女	男	女	男	女	男
二八四	二八四	二八四	二八四	二八四	二八四

右の表の如く解剖醫學者の研究した腦重量に就いて見る
 と研究者によつて多少の相違はあるやうであるが、大體に
 於ては一致してゐる。今第一表に就いて考察して見るに、

生後五ヶ月以内の初生兒は腦重量は男子は四五〇瓦、女子
 は四〇〇瓦で一年から五年即ち園兒に相當する年齢に至る
 と男子は一〇五〇瓦、女子は一〇〇〇瓦である。更に十一
 年から十五年小學校の上學年になる男子は、一三五〇瓦、
 女子は一二〇〇瓦に増加するから之れを比較して見るに、
 初生兒と園兒に於てはその増加は、男子では六〇〇瓦、女
 子も同じく六〇〇瓦の發育増加を示してゐるが、園兒年齢
 と六年生年齢と比較して見るに男子では三〇〇瓦、女子で
 は二〇〇瓦、その増加は前者の比較より見て遙かに低い數
 字を示してゐる。更に六學年生年齢と成人年齢を比較して
 見るに成人年齢では男子は一四〇〇瓦、女子では一二五〇
 瓦であるから、その發育増加は男子五〇〇瓦、女子も五〇〇瓦
 であつて、其の率さいふものは極めて低いものである。

要するに頭部に於ては分量的にも重量的にも四歳前後即
 ち園兒時代が非常に發育して、以後は餘り發育増加をしな
 いといふことになる。この事實に見ても世人の關心の薄い
 園兒保育が如何に國策たる國民體力強化の上に重要性を持
 つかといふことが、はつきり理解されると思ふ。

一、身長を測定して其の發育情況を調べて見るに次の様
 な表數を示して居る。

第三 身長表(糎)

大人	十二歳		十一歳		十歳		九歳		八歳		七歳		六歳		五歳		四歳	
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
一五〇・〇〇	一六四・五〇	一三七・五〇	一三七・九〇	一三一・七〇	一二六・一〇	一二六・六〇	一二〇・九〇	一一一・七〇	一一五・二〇	一一六・〇〇	一一〇・五〇	一一一・一〇	一〇五・八〇	一〇四・九〇	一〇一・一〇	九八・九〇	九四・五〇	九〇・三〇

四歳の男子は九四・九〇
 糎、女子は九〇・〇三糎、
 十二歳になる男子は一三
 七・九〇糎となり、女子は
 一三七・五〇糎となる。其
 の増加は男子で四三・四〇
 糎、女子で四七・四七糎で
 ある。これを大人の男子一
 六四・五〇糎、女子の一五
 〇・〇〇糎と比較するに男
 子に於ては七〇・〇〇糎、
 女子に於ては五九・九七糎
 を示してゐる。

三、體重で検討して見る
 二次の表に示すやうに四歳
 の男子は一五・三〇糎、女
 子は一二・二〇糎、十二歳
 の男子は三〇・一〇糎、女

子は三三・二糎、大人は男子五七・四〇糎、女子は五二・三

○ 肩で、其の増加は四歳と十二歳では男子は一四・八〇肩、

第四 體重表(肩)

年齢	四歳		五歳		六歳		七歳		八歳		九歳		十歳		十一歳		十二歳		大人	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	一五・三〇	一二・二〇	一四・五〇	一四・九〇	一六・〇〇	一六・二〇	一七・四〇	一六・六〇	二〇・一〇	一九・六〇	二二・四〇	二二・二〇	二四・九〇	二四・四〇	二七・五〇	二七・二〇	三〇・一〇	三三・二〇	五七・四〇	五二・三〇

女子は二一・〇〇肩である。又四歳と大人を比較して見るに男子に於ては四一・一〇肩、女子に於ては、四〇・一〇肩其の増加は非常に大きいのである。

四、胸圍の發育はどんな工合であるかを表の上から調査して見るに四歳の男子の平均は、男子は五二・五〇肩、女子は四八・五〇肩である。十二歳になるに男子の平均は六三・〇〇肩、女子は六三・一〇肩である。又大人の平均胸圍男子は八四・七〇肩で女子は七七・九〇肩である。

は男子は一〇・五〇肩、女子の増加は一四・六〇肩である。更に四歳と大人とを比較して見るに、男子は三二・二〇肩

を増加し、女子は二九・四〇肩を増加してゐるのである。

第五 胸圍表(肩)

年齢	四歳		五歳		六歳		七歳		八歳		九歳		十歳		十一歳		十二歳		大人	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	五二・五〇	四八・五〇	五一・二〇	五一・一〇	五二・二〇	五一・三〇	五四・五〇	五二・五〇	五三・三〇	五四・九〇	五七・〇〇	五五・五〇	五九・七〇	五七・五〇	六二・〇〇	五九・三〇	六三・〇〇	六三・一〇	八四・七〇	七七・九〇

五、脊椎形態情況を見るに、元來脊椎は初生児の時一本の棒の様に真直であつて彎曲を持つてゐない。それが子供の成長するに連れて生理的彎曲といふものが構成されて来る。即ち頸椎は前彎し、胸椎は後彎し、腰椎は前彎し、薦椎、尾閶椎は後彎してS字形の彎曲をもつやうになる。而して其の彎曲の程度の過ぎたものが、所謂畸形である。即ち虚弱兒童に多い胸椎が其の度を過ぎて、彎曲してゐるものを後彎症(猫背)といふのである。左右に曲ればそれは側彎症といふのであ

る。園児に於ては未だ生理的彎曲の構成未完善も相當にある。本園で調査研究した統計表を掲げて参考にする。

生理的彎曲未完成者

四五歳	男子	生理的彎曲未完成者	八六%
	女子	同	七八%
六歳	男子	同	七三%
	女子	同	六六%
七歳	男子	同	六五%
	女子	同	六五%

六、O脚は園児に可成り多く見出される。俗にガニ股がこれで整形外科の醫者はこれを膝内彎といつてゐる。大腿部より下腿部が外方に凸形を向けた弓形をなして其の頂點は膝關節面の上にある。丁度O字形をなすところから、この名があるので、先天性のものもあるが、後天性も多い。餘り早くから赤坊に手を引いて無理に歩行させるはO脚畸形になる恐れがある。本園で調査したところによるは次の様な比率になる。

四歳	男子	五一%	(O脚)
	女子	三五%	(同)
五歳	男子	五〇%	(同)
	女子	三〇%	(同)
六歳	男子	二〇%	(同)
	女子	二〇%	(同)

七、X脚はO脚に比較して見るに園児に於ては少ない。醫學者は膝外彎といつてゐる。下肢が體の外方に向いて角度を作るもので、膝關節は其角の頂點の處に當つてゐる。其の特徴は膝關節より下の下肢の部分が外側に向つてゐる。こゝで、膝關係は兩下肢を並べて見るに最内方に位するのである、これは先天性のものが多くやうであるが、後天性にも其構成を見るのであるから我々は常に關心をもつてなければならぬ。本園調査の結果は次のやうな比率である。

四歳	男子	二五% (少しでも傾向あるものを含む)
	女子	三〇% (同)
五歳	男子	二〇% (同)
	女子	二五% (同)
六歳	男子	一八% (同)
	女子	二〇% (同)

八、扁平足は人のよく知つてゐるところで、醫者は外翻足といつてゐる足の裏が平たく土踏まずがない、即ち足踵が外方に向つてゐる一種の畸形である。この足は歩行に弱い足で近距離の道にもすぐ疲勞して終ふのである。原因は後天性の者が多く床屋、女工、職工といつたやうに常に起立的職場にあるものは扁平足になり易い。又常に重荷を負ふ職業者にも多いやうである。

赤坊は皆な平足で土踏まずさいふものがない、併しこれは病的畸形のものではない。足の生育發達に連れて正常足さなるもので、幼稚園にはこの意味に於ける扁平足が澤山ある。本園の測定調査によるさ次の%を示してゐる。

五 歳	男 子	扁平足(平足)	五二%
	女 子	同	六五%
六 歳	男 子	同	四八%
	女 子	同	五五%
七 歳	男 子	同	四二%
	女 子	同	五〇%

結 論

我々は園児の健康保育のプランを作る前に、其對照とする園児その者の體が如何なる形態を正常とし、これが如何なる過程を辿つて發育向上するかを十二分に知つて置かねばならない。日々保育してゐる園児の肉體發育が順調であるか、後れて蝕れてゐるか進んで伸びてゐるか、それを知らずに居たのでは適正なる養護も鍛鍊も施す術はないのではないか。然らば園児の肉體發育の一般標準は何に求めるか、不幸にして我が國に於ては未だ園児の肉體を各角度から研究調査したものはいないやうである。さうしても日々園児を取扱つて居る保育者自身の手によつて測定調査して見るより外はないのである。これが本形態調査を行つた所以

のものである。

今以上の調査を要約して見るに、大體に園児時代はよく發育し、その發育はさこも同じ率で進むのではなく各部分に依つて特殊性の存することである。

頭圍について見るに、四歳乃至十二歳に於て百分の五の増加を見るに反し四歳乃至成人に於ては百分の十一の増加を示し。左右徑は四歳乃至十二歳が百分の七、四歳乃至成人が百分の八の増加さなつてゐる。又前後徑顔長に於てもこれと同様の増加が見られる。腦重量を見るに四歳乃至十二歳は百分の二十三、四歳乃至成人は百分の二十五、の増加さなつてゐる。こゝにも亦發育の特殊性が明らかに把握されるであらう。更に之を體重の増加率と比較すれば、もつこ明瞭になる。四歳乃至十二歳は男子で百分の五十、女子で百分の六十三を増加し四歳乃至成人に於ては男子百分の七十四、女子百分の七十七を増加し即ち體重は十二歳から成人になる間に著しく増加するのである。

右のやうな事實から吾人は何を得たかといへば、保育者は園児の肉體を充分知つた上にも知らなくてはならぬといふことである。

概念的に頭からきめてかゝる保育が如何に危険なものであるかといふことである。園児の肉體をよく知つて、そこから眞摯な體育衛生の保育活動が出發されなくてはならな

い。植物を栽培するに苗床時が最も大切である。我國の幼児死亡率は世界第一と言はるべきであるが、これは乳幼児を取扱ふ母親達の、その肉體を眞に知るこゝの少きこゝ、體育衛生への無關心を具體的に表現してゐるものであるといつてよからう。

我が國の幼稚園には體育こゝか、衛生こゝか取立てゝ保育項目として考へられてゐないやうであるが、肉體の基礎發育をなす此の時期を無爲無策にして放置するこゝは果して許されるこゝであらうか。前途多難なる皇國の前途を思ふ時、國民の體位の向上は幼児よりスタートしなくてはならないこゝをしみじみ感ずる。弱く生ひ立つた者を入學せしめて小學校時代に其の養護に苦勞をしてゐるよりも一步前の幼稚園保育から力を注ぐこゝは極めて能率的であるこゝを忘れてはならない。

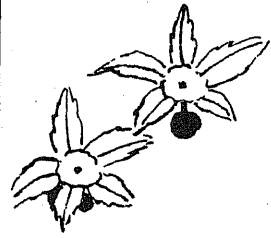
——フレーベル賞による——

幼兒童話及び幼兒唱歌 募集について

本誌の十一月號より、フレーベル賞による幼兒童話及び幼兒唱歌の募集を致して居ります。皆様さうぞごさし、應募下さいませ。そして、よい童話、よい唱歌が、澤山幼稚園の爲に出ますやうにこゝから念じて居ります。

細かい募集規定は本誌の廣告にございます。

(係より)



新年の童謡

葛原しげる

年のはじめに歌ふ童謡、それは、お正月の歌に他ならないのですが、かなり永く、次のが、廣く歌はれてをります。そして其の作者が、今は、歴史上の人物であることも、従つて、その歌詞が、少くも幼児の言葉でないことも、またいつの程よりか、妙な替歌まで出来て、「をはりなき世」が

「尾張名古屋」になり、「松竹たて——」が、「松竹ひつくりかへして大騒ぎ」なご、滑稽なものにさへなつてしまつてゐることも、大に、考へなくてはならない點かき、案じてをります。但し、よし作者は誰であらうとも、幼児にも解り易いものでさへあれば宜いのですが、殊に第二節のも、

「君がみかげに たぐへつゝ」

の六かしさ。「こそ」「けれ」の係り結びは、よいにしても、冒頭からして、「ためしみて、をはりなき世のめでたさを」なご、いき、やかましい事があります。しかし、その時代としては、これも已むないところでせうか。

一月一日

千家尊福氏作歌
上 眞行氏作曲

年のはじめの ためしみて

をはりなき世の めでたさを

松竹たてて 門ごみに

祝ふ今日こそ 樂しけれ

初日の光 さし出でて

四方にかゞやく 今朝の空

めでたいお年を取らせるこ

いの一番に 日本に

およこしなされたお正月

日本帝國 萬々歳

こいひました。ですから、題も『日本の正月』なのです。

事實、太陽は、いの一番に、日本を照らすのだこは、昔の昔、誰がきめたのか、歐米人までがさういふことになつたのかは分りませんが、『櫻さく國』の名と共に『昇る日の國』こは、よくも、名づけられたる我が國ではありませんか。それを思うて、この第二節を作りました。中でも、新年Ⅱ正月、それは、地球上の誰でもに、年を一つ宛殖やしてくれるものですが、それを、お日様が、つまりは、その原因であるこ解してかうしたのです。これを、すつかり、幼児向にしたものに次の拙作があります。

一月一日

小松耕輔氏作曲

一、けふは 今年の一歩はじめ

一月一日 嬉しいな

けふから 私のお年が一つ

大きくなつて 嬉しいな

はやく おこなに

なりませう

二、けふは 今年の一歩はじめ

一月一日 をかしいな

けふから 誰でもお年が一つ

大きくなつて をかしいな

みんなが おこなに

なりました

(大正幼年唱歌第四集)

子供時代には、正月が、何だか、うれしくてたまりません。そして、早く、大人になりたくてたまらないここ、老人が、正月を、さして悦ばないのこ正反對です。その正月になるこ、誰でも實際年が一つ殖えるのですから、をかしいです。たゞ一夜へだて、明日が來年になるのですからよく、考へてみるこ、變です。しかも誰も彼も皆、それを取扱つたのでした。

三

この『日の出』を主題としたものも、幾つかあります。

初日の出

山田禎一氏作歌

えつさか もつさか きつこいしよ

おてんこ様が顔出した

一年中の のぼりぞめ

ゆつくり おちつき 上らうぞ

えつさか もつさか きつこいしよ

おてんご様の上りぞめ

しかし、これでは、太陽の上るのが、のろ過ぎます。「ゆつくり上らうぞ」「こはいひながら——一體、太陽の昇るのは、見てゐるご中々、ゆつくりで、鈍いではありませんが、しかし、さう見るよりは、殊に、「初日の出」なら一層、元氣よく、せめて、美しく見たいではありませんか——故に昔の拙作に次のがあります。

日の出

あれ今

お日の出

りつばな日の出

ぎら ぎら ぎんぎら

ぎん ぎらり

東の空に一面に

金の鳥が こんで

金の波が 打つて

金の太鼓が ひびく

こん こん すきこん

こん すき こん

こん こん すきこん

こん すき こん

あれ今

お日の出

りつばな日の出

大きな日の出

お日の出 日の出

こ、ごこまでも、「日の出」を讚美したのです。いふまでもなく、「金の鳥」こか「金の波」こかは、旭光に光る雲なのですが、「金の太鼓」こいふのは、明けて行く東の空を見てゐますこ、急に、黄金色の空になつて明るみがさして來ますこ、私にはその遙かなる彼方の空の一方で、「金鼓しきりに鳴る」こいふ感がしてならないのです。

しかし、これは、正月の日の出、即ち、「初日の出」に限つたのではなくて、いつもの日の出ですが、次のは、初日を取扱つたものです。海の初日です。前のは、陸上の日の出です。

海の初日

海の初日が

今昇る

海に ぎらぎら

今昇る

金板並べて金の橋
銀板並べて銀の橋
金銀橋の 日の王子
銀のお馬に 金の鞭

海の初日が

今昇る

海に きらきら

今昇る

この、金の橋——銀の橋、そして、つまりは、金銀橋——までは、棚曳く雲の色ですが、「日の王子」さか、「金のお馬に金の鞭」さかは、目に見える現實ではなくて、聯想です。先の「金の太鼓」も同じです。曉の空に棚曳いて、まだ昇らぬ旭に照らし出されて、金にまた銀に輝やく雲——それを「橋」を見てをりますさ、その橋をば、「金の馬」に乗り「金の鞭」を手にした「日の王子」が、想像されるのでした。

四

物音の新年は、羽子つきであり、萬歳の鼓の音です。この二つは、子供にも大人にも、正月氣分を豊かにしてくれます。

おめでたう

あつちだ こつちだ

子供が 羽根つく

こつちん かつちん

子供にまじつて

大人も羽根つく

こつちん かつちん

遠くの空には

あんなに たくさん

凧が上つてる

お日様 照つてる

さここかで ボコボン

あんなに よい音で

鼓が鳴つてる

唄も聞える

新年 まごころに おめでたう

雀よ 子犬よ おめでたう

誰でも 彼でも おめでたう

何でも かんでも おめでたう

これは、「おめでたづくめ」の新年の子供の氣持です。見るもの、聞くもの皆美しく、すべてが、新年の爲にあり、子供の爲にあるかまさへ、うれしく、おめでたいのです。すべてが、子供自らの爲に——、子供自らの歡喜の爲にあるかまばかり、うれしいのです。子供自らは、さうまは心づきませんが、只もう、うれしいばかりなのです。

五

この羽子つきの唄の中に、廣島縣古市地方のが、『日本童謡民謡曲集』に收められてをりますが、

- 一びの木
 - 二びの木
 - 三で櫻の
 - 四びの木
 - 五葉の松の
 - 椋トビの木
 - 七つ梨の木
 - 八つ柳の木
 - 九つ小梅の木
 - 十で ミツて 歳トシの木
- こいふのは、一から十までを竝べた技巧ですが、「一び」「二び」「四び」は、何でせう。更に、同じ技巧のもので、
- 一人來な

- 二人來な
 - みんな來て
 - 寄つて來て
 - いつ來ても
 - 無理いふ
 - 何が あつても
 - やりやせん
 - 今度 來たら
 - 戸をしめる
- さ、「二二三……」を「ひふみよ……」さよんであるのもあります。この「一人來な二人來な」の冒頭のもは、他の地方にもあります。千葉縣堅田町地方では
- 一人來な
 - 二人來な
 - 三てきて
 - 四つてきて
 - 五つやら
 - 六かし
 - 七んの
 - 八くしま
 - 九のやで
 - いつちよよ

さいふのです。静岡縣御殿場地方では

一人來な

二人來な

見て來な

寄つて來な

いつきた

むこさん

ななこの帯を

やの字にしめて

ここのまじや

さほよ

さあります。むこごのが、「ななこの帯をやの字にしめて」をかしいこごですね。また、富山縣上新川郡地方では

しろまめ くらまめ

なんてん かんてん

はすのはこご さまれ

十一 十二

十三 十四……(數へる)

さいふさうです。「白豆 黑豆」でせうか、「南天、寒天」でせうか。何の意は無くて「かつちん、こつちん」の擬音も感ぜられて、幼児には面白いでせう。

六

正月さん 正月さん

さこまで さざつた

くるくる 山の

下まで さざつた

お土産 なんだ

榎や 搦栗

ゆづり葉に 垂藻

繭玉ふつて さざつた

これは、富山地方ですが、「垂藻」は、備後地方で「ホ
ンダワラ」をもいつてゐる「神馬藻」のこごでせうか。注
連繩につけて裏白の、ゆづり葉と共に、正月のお飾りにな
くてはならぬ、あれでせうか。

此の「お土産」のこごは、偶然ですが、古い拙作にも、
次があります。それは、今、比べてみますと、題からし
て、よく似てゐるのですが、全く暗合でした。

お正月さん

大和田愛羅氏作曲

一、來ましたく、お正月さんが

お土産に たこもつて、こまもつて、

電車もつて、自動車もつて、

その上に、知らぬ間に

お年を一つづつ、皆に持つて來て

父様さ、今、おざしきで、おはなし中。

二、来ましたく、お正月さんが

お土産に、まりもつて、はねもつて、

リボンもつて、お人形もつて、

その上に、知らぬ間に

お年を一つづつ、皆にもつて来て

母様さ、今、お茶の間で、おはなし中。

「お正月さん」は、一種の幻想です。前にも書きました
さほり、「正月が来る」といひます。正月が来るさ、さこの
家にも、子供のある家なら、きつさ、凧や毬が、知らぬ間
に子供部屋に、持ち込まれます。これは、きつさ、「お正月
さん」といふをぢさま、をばさまが、お土産に持つて来て
下さるんでせう、さいふのです。さう気がつけば、今、お
ざしきで、父様とお話し中なのが、そのお客様である「お
正月さん」をぢ様、らしく、又、お茶の間で、母様とお話
し中なのが、そのお客様である「お正月さん」をば様、ら
しいさいふのです。さこまでも、幻想的です。幼児の幻想
は、まごころに、途方もないものですが、しかし、そこに、
實は、科學の芽が藏されてをり、發明の泉も湧きかけてゐ
るのです。

それにしても、此の非常時にまた新年を迎へ得る有難さ。

それを思つて、いよく、幼児のために、よい事を考へ、
よい事を言ひ、よい事をしたいものです。

(昭和一四、一二、七)

二四

久方の天のかぐやまこのゆふべ

かすみたなびく春たつらしも

冬ごもり春さりくらしあしびきの

山にも野にも驚なくも

萬葉集

山風にさくる氷のひまごころに

うちいづるなみや春のはつはな

袖ひぢてむすびし水のこほれるを

春たつけふのかぜやまくらむ

古今集

子供の咳

醫學博士 竹内 薫 兵

呼吸に正常呼吸と異常呼吸を區別
することが出來ます。異常呼吸の一に
咳がある。呼吸の反射的異常の中、呼
氣衝擊といふ状態、これがくしゃみやこ
もなり、咳ともなるのであります。こ
の異常は、鼻、咽頭、喉頭、氣管、氣管
枝及び肺に普く擴がつて居る神經（迷
走神經、三叉神經）の末端を刺戟する
と、忽ち反射的に起つて來るのであり
ます。尤もくしゃみや、鼻の粘膜の神
經の刺戟された場合のみであります。

それ故、咳は、鼻、咽頭、喉頭、氣
管、氣管枝、肺その他これ等の神經の
刺戟されるやうな状態に置かれた時は
いつでも起ころと思はなければなりま
せん。
咳が出た、早く止めたいと思つて
も、元來咳の出る場所がかやうに多種
でありますから、その何處から出る咳
かを先づ見極め、さてそこを治すとい
ふことにしなければ治るわけはありま
せん。
單に咳を起す場所を知るだけでは
いけません。そのやうに悪いから、
そこから咳が出るかを突き止めなけれ
ばほんごうには治らないわけでありま
す。

しかし、咳の出るのに多くの場所を
掲げましたが、引き括めて申せば氣道
に過ぎません。空氣の通る道でありま
す。氣道に病氣のある場合、之が刺戟
となつて咳が出るのであります。凡そ
食物の通る路に病氣のある時は、それ
を治すのに（即ち胃腸を治すのに）、何
は置いても、食物を注意するのであり
ます。腦の病氣の場合、腦を働かせる
一切の事、即ち思考といふ事に注意を
拂ふのが、腦病を治す第一義でありま
す。と同様に空氣の通ひ路の病氣であ
る以上、外のいろ／＼な點を考慮して
治す方法を講ずる前に、先づ何はさて
置き呼吸する空氣を改善することが絶
對必要であります。

道普請のためには、一時、人車一切
の交通を杜絶させた方がよい場合がい
くらもあります。それと同様に胃腸の
病氣でも、飲食一切を絶つた方がよい
事は、よくあります。腦の病氣で一切
の思考を絶つ即ち睡眠状態に置くのを
療法の第一義としてあることも御承知
の通りであります。呼吸器の病氣に當
りまして呼吸器を休めることがこの

器官の病氣を治すに最も有効である筈であります。それには呼吸を全く止めることが先づ考へられるのであります。恰も消化器の病を治すのに絶食絶飲が先づ行ふべき道であると同理であります。然るに呼吸を止めることは不可能であります。若し五分間呼吸を停止すれば人は死んで終ひます。でありますから、咳を止めるために呼吸を止めることが理想的であるかも知れませんが、その咳の治る前に人は死んで終ふ事になりますから、何にもなりません。そこで氣道の通行者である空氣を改善するの必要を申すのであります。

健康者であれば、冷たい空氣必ずしも害はありません。感冒は冷たい空氣を吸ふから起るのでなく、必ずや人から傳染するものであることは既に證明された事實であります。ところが一旦咳が出る。即ち氣道の病氣に罹つたことがあると、冷たい空氣ではいけません。温いそして適當の湿度を持つた、いは

ゞ春の日の風の様な空氣が必要であります。その爲に、人工的に春の風を拵らへるのであります。即ち部屋に湯氣を立たせたり、部屋を温めたりするのであります。獨り温度と湿度とのみならず、塵埃が多かつたり、流通しなかつたりして居てはよい空氣ではありません。更に窓を云へば紫外線に富み、陰イオン乏しからざる空氣といはなければなりません。空氣の温度は華氏六十度内外を適度とされてあります。

咳を治す一般原則の第一を呼吸する空氣の改善と申しましたが、第二を申しますと、悪くなつた場所を勞つてやることとあります。極端に勞つてやることは、全く用ゐないといふ事になります。それが出来れば結構であります。しかし、鼻にせよ咽喉にせよ、氣管にせよ肺にせよ、全く使はずには居られません。例へば呼吸を全くせずに置くといふやうな事は前申しました通り出来ることではありません。さはいへ

勞つてやることは出来ることとあります。例へば咳の出る場所が喉頭あたりからさいたしますと、なるべく聲を出さないで置くとか、氣管や氣管枝に病氣のある場合では呼吸のはづむやうな事はせぬやうにするなごであります。

第三の原則と申しますと、全身を驅使せぬ事とあります。第二の場所は、咳の出る場所それだけでありますが、單にそれだけでは充分ではありません。あまり身體を酷使しますと治るべき咳も治りません。なるべく勞つて使ふことが肝要とあります。と申しますと、咳位のことと子供をそんなに大切にするのは大袈裟であるとか、それは却て軟弱な子供として終ふものだといふ攻撃が来るかも知れません。それは尤もであります。しかし、私の申しましたのは飽くまで原則でありまして、この原則を極端に用ゐるか、軽く用ゐるかは一にその病氣即ち咳の性質や程度によることとあります。原則を原則として

心してお用ゐあらんことを希望いたします。

そういう意味で、この第三原則としての全身を勞るさいふことも、或る場合には、絶對安靜で、寝かして置かなければならぬこともありませう。又或る場合には、それほどなく、幼稚園を休ませないで、その代り歸宅したらそのまゝ外出させないで置くさいふ程度もあるであります。

咳を治す原則を申しましたから、これから、各論に移ります。各論ごなります。場所によつての差異、即ち咳の出る場所による治し方の差異を述べるところや、又、病氣によつての治し方の相違等の問題になるわけでありませうが、その一々は到底こゝで述べ盡くせませんから、その概略だけ、しかも、急性病の場合についてののみ申し述べるところにいたします。

一、鼻から起こる咳

鼻へ薬を付けるこゝなきは、醫師の

領域に屬しますから申しません。鼻汁が出たり、鼻の中が痒かつたり、鼻が塞まつたりいたします。こういう場合に一番利く方法は、鼻を蒸す事です。

硼酸水(五十倍)を小さいウガイ茶碗へ入れ火鉢へかけ温めながら、ハンカチーフかガーゼを二つ浸し、先づその一つを絞つて、鼻へ當てるのです。しばらく當てゝ外し、今度は又別の布片を鼻へ當てるさいふ具合に交互にあてゝ蒸すのです。大抵二時間も續けてやるに鼻の通りがよくなり、従て咳も止ります。しかし、子供を二時間もじつこさせて置くこゝは少しく困難でもあります。うまく扱へば目的を達するこゝも出來ます。この代りに、或はこれに引きつゞいて吸入をさせるこゝも悪くはありません。吸入さいふは御承知の如く、吸入薬(やはり硼酸水)を吸入器で以てシュー／＼顔へあてるのであります。目的は鼻の孔へ吸入薬の噴霧を吹き込むのであります。

そのやうに思ふやうに鼻孔だけへは入りませんが顔へ當てれば、息を吸ひ込む時に自然に鼻孔へ薬が入つて行くわけであります。吸入薬を五〇グラム位一回にやり一日五六回繰り返すのであります。

食べ物はずべて温い物、むしろ少し熱い物を與へるがよいのであります。これは汗をかゝせたい目的にあるからであります。すべて鼻でも咽喉でも咳の出る急性病の場合は、汗をかゝせるこゝが治療の一方法となつて居りますから、この場合も汗をかゝせるために熱い飲食物を與へるこゝを勧めるのであります。

同じ目的で衣類も温かに着た方がよいのであります。

二、咽頭の咳

鼻の場合と取り扱ひ方に大した相違はありませんが、この場合には含嗽さいふ方法があります。これは薬液を直接患部に觸れさせるこゝによるのであ

ります。合嗽に用ゐる薬は、簡単な場合には食鹽でも重曹でも差支ありません、ガラ／＼と咽頭へ入れて又吐き出すのであります。合嗽薬は少し温めてやるのが宜しいのであります。しかし合嗽の出来るのは満五歳以後でありますから、幼稚園年齢の子供に皆當てはまることは申しません。

聲を出させる事は減じた方がよいのでありますから、唱歌はいけません。

三、喉頭や氣管の咳

この時は吸入がよく利きます。泣いても、いやがつても吸入させた方がよいのであります。しかも一日に七八回から十二回やるがよい。大抵は咽頭が痛み、聲が嘎れます。聲を出させないやうに注意する事は申すまでもありません。頸へ濕布を巻き又は乾いたネルなご捲くことも悪るい方法ではありませんが、何分にも頸へ捲くことではありませんから、寛に過ぎては利かないし、嚴に過ぎるご頸を絞める事になります

し、洵に六ヶ敷いのであります。なるべく止した方がよいと思ひます。

食べ物や衣服の事は鼻の場合と同じ注意でよろしいのであります。

四、氣管枝や肺からの咳

氣管枝炎といふ病氣そのものは必ずしも重病ではありませんが、やゝもするご、大病になり勝ちであります。軽い間に注意することが肝要です。肺炎に至つては勿論重症です。寝かして置くごが必要で、一般の法則で述べた手當の外、鼻の處で申上げたご

を行ひ、吸入も行ふ。ごにかく、この場合は、安靜に寝かして置くごが大切であります。それが守れないご咳の治り方には勿論影響しますが、或は生命そのものご脅かされる惧も充分に起つて來ます。

胸へ濕布を巻きます。前から後へぐるご捲き付けるのであります。普通のお湯でも結構です。硼酸水でもよろしい。タオルに浸して、絞つて軽く捲

き付け、その上を本ネルご油紙で又捲くのであります。四時間位に取り代へるのであります。

濕布の時注意すべきは、胸へ固く捲かぬごであります。外行きの衣物を着せるやうに、ごうも、キチンご固く捲き過ぎる傾きがあります。病氣の爲めに大變悪るい結果をもたらします、

もう一つ濕布について注意すべきは熱過ぎるごです。世人、ごうも濕布ごいふご熱いものご誤り考へて居ます。

熱い蒸したタオルから聯想してかやうなごになつたのではないかと思ふ位、フウ／＼吹くやうな濕布を吾が子の胸へ、しかも、熱くて耐えがたい泣き喚ぶ胸を壓へ付け／＼よくも捲かれたものだと思ふのに、平氣でやつてます。お蔭で子供の胸は大抵このための火傷を起こして居ます。……もつご／＼生

温い温度の濕布をなさい。

咳の出るのは、必ずしも、氣道の病氣ばかりではない、耳が悪くても、肋

膜が氣病でも咳は出ます。又、百日咳
さいふやうな特別の病氣もあります。
しかし、其方のここまでは、述べない
ここにいたします。

咳を豫防するには、咳を起こすやう
な氣を豫防することです。病病氣には
種々ありますが、其中最も多い感冒の
豫防が、咳の豫防として一番重要であ
ります。感冒の豫防には寒い目に遇つ
ても寒くないやうに平素から習慣をつ
けておく事であります。これが感冒豫
防の眼目であります。これまでの母親
はわが子を温め過ぎて却て感冒を引か
せて居たやうであります。

さて、國は今非常時にあります。燃
料國策上、さうしても子供は寒さに耐
える習慣をつけさせられることになり
ました。この結果が、子供に感冒を多
く起こさせることになるか、或は感冒
にかゝる子供の數を減じることになる
か、私は小兒科醫として多大の興味を
以て眺めつゝあります。(丁)

乳兒の死亡率減少青

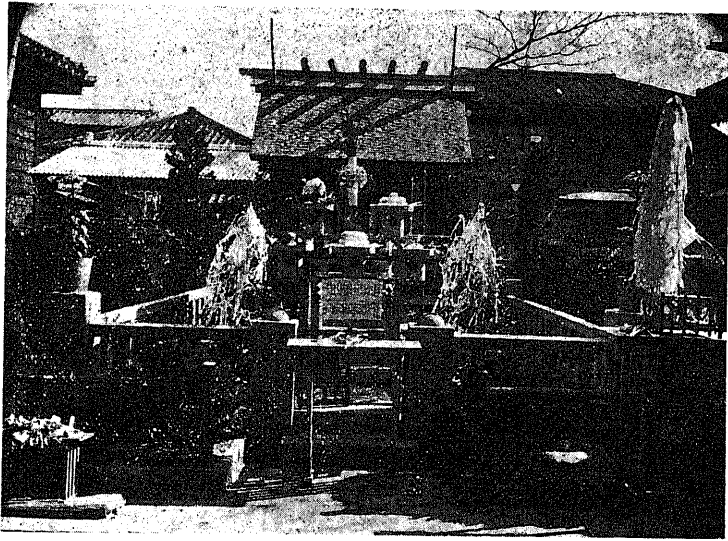
年は寧ろ増加(内閣統計局) 發表

日本人は幾歳まで生きる？ 短命國の汚名
を背負はされるわが國の第六回生命表が内
閣統計局から發表された、事變前の昭和十
年四月から翌十一年三月までに行はれた國
勢調査と當時の人口動態統計を基礎として
漸く出來上つたものであるが、最近におけ
るわが國民の壽命の消長がこれで明かにさ
れたわけである。「人生五十年」？ その統計
によると、わが國民の一年間の死亡率は大
體千人のうち二十人足らずの割合となつて
例年通り大差はないがこれを各年齢別の四
期に分けてみると大きな差がある。

即ち一期の生後一年の幼兒の死亡率は極
めて高く出生千人に對して死亡百六人の
割合で男女別では男兒が千人中百十三人
女兒が九十九人、滿一歳になると男三十
七人、女三十五人といふ工合に年齢の長
ずるに伴ふて死亡率はグーツと減少、十
歳前後では男女差異なくそれ／＼千人に
對して約二人半となつて零歳の時よりも

れば約四十分の一となりこの時期は人生
中最も死亡の少い時でもある、第二期に
入つてからは年齢の増すに従つて増し女
は滿十三歳頃から十八歳までの花盛り
に男よりも死亡率が高くなり、二十歳に
なつて千人中男十人、女九人半と稍挽回、
二十一歳からの三期では男三十六歳、女
三十二、三歳頃まで漸減し千人のうち男
七人半、女八人となつて比較的生命的安
定期といへる、第四期になると年齢の進
むにつれて死亡率は高くなり男は三十七
歳(七八人)三十九歳(八・五人)四十一歳
(九・三人)四十三歳(一〇・五人)、女は三
十七歳(八・六人)四十一歳(九・〇人)四十
三歳(九・一人)で男の方が急激に増加し
女は四十四歳以後に入るとあとを追ふや
うに急になるが、男七十歳で七六・七人
女五三・三人と離れて男に長壽者は少い
ことになつてゐる

この總勢を大正十五年から昭和五年までの
統計に比べてその死亡率は大體男女とも
全年齡を通じて八割方の低下を示し特に乳
兒が少くなつてゐるとは嬉しい、だが二十
歳より三十三歳といふ有為な青年の死亡率
が前同より四〇%乃至六〇%方増加してゐるの
はどうしたか之は結核による死亡が多
くなつた爲で、こゝにも憂ふべき事實が現
はれてゐる。



御初穂にひびく

福岡県市立小倉幼稚園長

大浦 キミ

奉齋殿の聖らかなるよろこび稻のお初穂が御縁さなりまして此稿を書かして頂き私の幼稚園の一端を物語る光榮を心から感謝致します。

花咲く四月に可憐なる姿にて入園しあたかも春野に萌え出た若草の様、やがて夏もすぎ紅葉織りしく秋の日は足ざりも勇しく心にひびく幼稚園生活の嬉び目に見る耳に聞く總べての幼稚園の日は心も身も充實しやがて寒い冬も嬉しいお友達三年を重ね、學校だ學校だご希望にもえる子供心に再び訪れた花ご鳥に送られなつかしい幼稚園におさらばして人生の第一歩輝かしい學校生活に入るあゝこのめぐる一年なすごはなしに物をなし唯遊びの生活に送り迎ふる今日ご明日目が覺むれば幼稚園寢ても幼稚園、なつかしい先生ご好きなお友達ご思ふ存分手も足も仲ぶ幼稚園この幼稚園は幼い心に何を贖けごしませうか、何を心の底に植えつけませうか、全生命を投げ出し先生ご呼ぶ心ご目に與ふる真心、伸び行く幼い生命育ち行く靈感にまつ植えつけ根強く育てたい物は我國體の精神だご思ひます。有難い御國心で健康なる身體、豊かなる精

神は神に通じ國に捧げる國民としての誠の道を幼いながら心得て唯喜ぶ日本の子供心 天皇陛下の忠良なる赤子として感謝して育つ子供に致し度考へて居ります。

教へるでない學ぶでない幼稚園の保育、遊んで居る中に物を學ぶ保育なく一朝一夕に研究しきれない澤山の問題を與へられて居るのでございます。中でも物に感じやすい幼児にござりましては環境の整理は誠に大切な事だございます。昔から孟母三遷なごも誠によい例でございます。學ぶごなしに物學ぶ子等の爲に導く保育者の立場は誠に大なる使命を帯び幼児の個性をつくる根柢だま存じます、ここに將來ぬぐふ事の出来ない三つ子の靈百迄の育ちの心を思ふ時私共は充分に責任を感じます。

奉齋殿と齋庭の稻穂

昭和十二年七月七日蘆溝橋事件に端を發した事變は皇運の御光輝四方に普ねく今や時局は東亞新秩序建設の段階に入り國家の總力を擧げて斷乎邁進すべき秋皇國百年の將來に現下の難局を案じ私等幼児の教育者は其重大さを痛感し家庭に手を握り層一層精神の基礎を培ひ健康なる幼児に育てねばなりません。

本園は明治二十三年四月の創立昭和八年十一月十五日新園舎建築後教育の中心をなす可き尊皇敬神崇祖の念を養ふ

爲に園庭中央に神明造りの奉齋殿を昭和十四年二月十一日に建立竣工伊勢の大麻を御奉戴申し其莊嚴味を添ふる爲に外園内園をそれらに風格を備へた樹木の植え込みにより六月一日築庭の竣工を見ました。

日本紀神代卷

天照皇太神は建國の當初に皇孫瓊々杵尊を此國土に君臨おさせ下されませ時、天壤無窮の御神勅、天津神籠天津盤境の御神勅、齋庭稻穂の御神勅、を給りまして「勅曰以吾高天原所御齋庭之穂亦當御於吾兒」。

天照皇太神は保食神より五穀の種を御取り下されまして大變御嬉び遊されこは愛しき蒼生アヲラシキキの食いて活くべきものなるぞ、これは我親愛なる天下の蒼生の生命をつなぐ大切なるものであるぞと仰せ下されまして秋の收穫が終りますご吉日を撰び齋戒沐浴せられまして神祇をお祭り下され御自身も食召し食し得たる欣びの感謝を神様に御禮下され尚且つ天下の蒼生も不足なく食ひ得る方法、作法なご御教慮下されました。この誠に有難い古事を偲び奉り奉齋殿の兩脇に細長い聖き稻田（正田副田）をしつらへ初夏六月には稻苗を植え保母、幼児勤勞奉仕により敬神保育、觀察保育の心うれしき神様への御つかへまつりをさせて頂きながら長い夏もスク／＼と伸び行く稻穂の成育を感謝しながら幼児に保母が手をそろへ丹精にこれを育て都市の中央然も御神

殿脇に、端穗の國の稻穂が拜み誓ひにより、此秋は可愛
い稲田に黄金の波ゆらぎ百雀の飛び交ふ等神々しき繪の如
き園庭に於ける數株、これぞ金粒と呼ばして頂き度、紅葉
の如き幼い合掌の賜なる聖なる稻穂を十月五日に苅りこり
まして特に青少年學徒に勸語御下賜の日を選び十月二十二
日に縣社八坂神社、小倉市役所奉安殿、官幣大社箱崎宮、
天神様、幼稚園の總本家東京女子高等師範學校附屬幼稚園
に御供へ申上げました。各神社はこの幼い兒達の手に出來
た數本の御初穂を新嘗祭にお供へして皇國の御榮えを御祈
願下さいまして、其教育的意味を最も強調し神に御祈願頂
く喜びを幼兒と共に深く感謝致しながら當園としては昭和
十四年十一月十日精神作興詔書下賜記念日に家庭全部を御
招待申上げ奉齋殿前に於ける獻穀祭、幼兒の爲の幸福、健
康の向上及無事息災を祈る七五三のお祝、御凱旋の御父兄
様の爲に御歸還報告祭を致しました。

明治天皇御製

打ちつれて園に遊ぶ子供等は

學ぶこなしに物學ぶらむ

勿體ない御製の御精神を拜承致しまして此非常時局に於
ける國家觀念の養成に立脚し生活の中心を皇室中心に結び

つけ、氏より育ち三つ子の魂百までの環境に支配される此
時期に學ぶこなしに物學ぶ心の底に動かぬ信念を植ゑつけ
家庭、幼稚園一丸となつての保育がしたいと念願しながら
幼稚園全體の施設に國家的觀念のみなざる様、保育の道に
いそしんで居ます。幸にかゝる行事の折家庭全部御出席行
事を遂行し實質剛健幼兒は只一枚の制服にて式日はネクタ
イを用ゐ、國策に順應し内に外に萬ゆるぎない保育をこ念
願致して居ます。十一月十日の獻穀祭、七五三のお祝、凱
旋報告祭と三重奏のお祝日には御神前に自作の稻穂（別紙
寫眞の通り）を中心にお飾りをし神宮を迎へて祓式、祝詞
奏上、玉串奉奠等の祭典及記念式を行ひ、幼兒達にお土産
として輝く御門の特技、御父兄様と凱旋の勇士様方には齋
庭の稻を交せてついた赤白のお鏡一重宛を記念に差し上げ
ました。會合して下さつた御一同様は大變満足なさいまし
て談笑裡に歸宅なさいました。尙奉齋殿は日々清淨にして
保姆幼兒の勤勞奉仕の後朝の禮拜をなし保育にさりかゝり
ます。神様の靜まります幼稚園入退出には父兄も幼兒も禮
拜を致します。

塵一つ止めぬ神域は誠にすが／＼しい氣分を養ひ只神前
に於て、祈りの生活の中に、國家觀念に立脚して、底力の
ある精神力と、體力の養成を著眼點と致し毎日の保育を感
謝と歡喜の中に致して居ます。

曉を拜して

皇紀二千六百年、聖戰第三のお正月、當園創立五十週年卒業園児五千五百名、私が勤続二十年、福岡縣に於ける唯一の公立幼稚園、昭和十五年の初頭、聖らかなる曉を拜して省れば向ふべき永遠の保育の道に限りない責任を痛切に感じ、慈愛のふさごころに幼兒を活かし幼稚園の伸展向上、明朗なる強き正しき子供として人生の基礎を作り幸福で健康なる様にこ靜かに神に念願して奉齋殿の御前にぬかづきました。

幼兒の爲の念願

- 一、幼兒を家の寶、國の寶として養護させよう。
- 二、皇道精神の高揚に務めさせよう。
- 三、情操の陶冶を強調致させよう。
- 四、日常生活の向上を計りませう。
- 五、國體生活の訓練を致させよう。
- 六、意志訓練の強化を計りませう。
- 七、知育は加味する程度に致させよう。
- 八、國際親和の精神を養ひませう。
- 九、まづ健康なる様注意致させよう。
- 十、よい習慣性のつきまます様訓練致させよう。

保姆の爲に(保育十訓)

- 一、力を盡せ幼兒擁護愛せよ敬せよ強く育てよ。
- 二、環境のよい幼稚園とするは保姆の任務。
- 三、幼兒の生活を基として、其の日の保育の出發點させよ。
- 四、言行共に上品にして幼兒の反響よろしいか。
- 五、保育は幼兒を中心として保姆はマネージャーたる事。
- 六、強い信念を優しい心情を持ちて幼兒に對せ。
- 七、志操は豊富にして幼兒にあたるに簡易なれ。
- 八、幼兒の心的状態を洞察して臨機の誘導をなせ。
- 九、時間は守つて、時間に捕はるゝな。
- 十、個性に注意して、全體を忘るゝな。

家具、園具の修理法

東京女子高
等師範學校

山形 寛

一 修理は直ちに

時局柄物資節約、資源愛護が叫ばれて居りますが、既に使つて居る家具や幼稚園の園具をなるべく大切に破損しないやうにすると共に、破損したものは之を修理して使ひ度いと思ひます。諸行は無常でありまして物は使へば必ず何時かは破損するものですが、物は使ひ方により、又手まめに修理することによつて、寿命は二倍にも三倍にも伸ばすことが出来るのです。

病氣もその初期に氣がついて治療すれば比較的簡單なるものと同様に、家具も破損の初期に氣がつき直ちに修理をすれば素人にでも簡單になほせるものを、打ちやつて置いたためにだんく破損の箇所が大きくなつて、遂には家具屋の手にかけてもだめになつてしまふことが少くないのです。それで編纂者の御命により、此所に家具園具類の素人に出來る初期修理に就て二三お話しやうと思ひます。

二 卓上に出來た茶碗のあとをとるには

机やテーブルの上に濕つた器や熱い器を置きますと、その跡に白い圓い輪形が出來て大變見苦しくなります。之は濕つたものや熱いものを直接に載せないで初めからそんな輪を作らないに越したことはないのですが、如何に注意して居つても何時の間にか出來てしまふことがあります。漆で塗つたものならば、かう言ふ輪はめつたに出來なく、又上等の家具で透明ラッカーを丁寧に擦り込んだものならば一寸位熱いものを置いても輪は出來ないのですが、普通品はワニス塗り仕上げになつて居り、このワニスは水分や熱に對して甚だ弱いもので、濡れた茶碗をしばらく載せて置いたり、熱いものを一寸置いただけで、もう跡がつくのです。

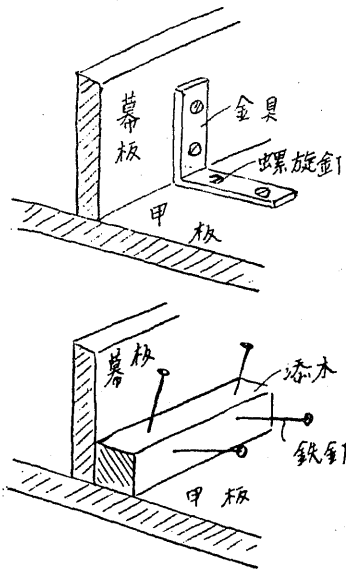
ワニスは普通ニスとも言つて居りますが、之にも非常に澤山な種類があるのですが、油で溶かしたものと、アルコホルで溶かしたものとがあり普通品には後者が多く用ひられてゐます。

そこでその輪形の修理ですが、脱脂綿を布片で包んだものか、布かにアルコホルをつけたもので、軽くその周圍をこすれば簡單にされてしまひます。この時あまり局部的にこすると、その部分だけのワニスをはげてしまつて見苦しくなりますから、周圍や、廣い部分を擦るがよろしい。そ

甚だ不經濟です。

小數の家具だに、一々職人に修繕させるのも手数ですが、自分で修繕するによいと思ひます。大破してしまつたものの修繕は新しく作るのよりもかへつて面倒なこともありませんが、少し結合がゆるんで来た程度ならば、一本の釘を打つただけでもつやうになりますし、又一寸した補強材料をつけただけでもつやうになります。

扱てぎし／＼弛んで来た時の修理法ですが、同じ机のやうなものでも、甲板(上面の板)と脚との結合法にもいろいろあり、又ぎし／＼言ふやうになる原因も多種多様ですから、現物を見なければ確かなことは言へないのですけれど、大體の處を申しますと、上圖に示したやうなL字形を



した金具を求めて來まして、甲板と脚、脚と幕板(甲板の下脚と脚との間に横にはいつて補強と體裁をよくする爲めの板)、甲板と幕板等、弛んでぎし／＼動く部分の、内側の目立たぬ所に當てて、螺旋釘で止めるが最もよいのです。金具は金物屋で賣つてゐます。圖は机をひつくり返して裏側の一部を示したものです。

螺旋釘を擦ぢ込むには、錐で釘より稍々細い孔をあけて置いてから螺旋廻しで擦ぢ込むのです。之も初めから堅くは止まらぬかも知れませんが一二度經驗すれば容易に出來ます。

若し金具の無い場合には、下圖に示す如く二センチ角位の木の角棒を適當の長さに切つたものに、膠をつけて、動くやうになつた部分の内側につけ、上から更に釘を打つて甲板と幕板等とにしっかりと固定します。圖に釘を打つ方向を示して置きました。膠をこかすところは面倒ですから、飛行セメン、櫻セメン等と稱するチューブ入りの接合剤(一本十錢位)を用ひれば輕便です。之は子供の手工用品などを賣つてゐる所で求められます。削つた角材も家具や建具などを製造した店に行けばあります。

五 蟲の喰つた時には

櫛やラワンなどで作つた家具には、蟲がついて黄色い細粉を小さい孔から出すことがあります。之は外から見ても

小さな孔をあけるに過ぎませんが、捨て、置きます。内部は粉ばかりになつて、上面はニスのみ込んである部分だけ紙のやうな薄さに残るに過ぎなくなります。此の蟲はいろ／＼やつて見ましてもなかく、死滅しませんが、二硫化炭素をスポイドのやうなもので、蟲のあけた小孔から流し込んでやればたいは死にます。然し全滅はなかく、容易でなく、又時を経れば粉を出すころがありますから、その時は又二硫化炭素を注入することです。二三度やつてる中には大抵大丈夫です。この蟲は成品になつてから外から這入るのでは無ささうです。素材の中からはいつてるのが、何かの都合で急に活動し出すやうです。又板が接ぎ合せてある場合には一枚の木だけを喰つて、他の板にはめつたに移りませんから、その喰つた一枚をこり替へれば一層よいのですが、それは素人には出来ません。今回は先づ此の位にして置きます。

【新刊】

高島 巖著

歌ふ子供たち

著者は十五年餘もの長い年月を、社會事業の爲に生活された方である。現在は「子供の家學園」の園長として、被虐待兒童の保護に専念せられてゐる。本書は著者のかゝる生活の中から生れ出た感想、座談、講演、記述の中から、被虐待兒童に關するものだけを集められたもので、讀む者をして、著者のこの努力に對して心から崇敬の念を感ぜしめないではおかないのである。御一讀をおすゝめする。(記者)

(東京市芝區田村町一ノ三、萬里閣、定價壹圓三拾錢)

坂内ミツ著

幼稚園の生活

本書は徹頭徹尾實際の書である。著者が二十餘年の間幼兒と共に生活をした方であるだけに、その一頁を開いて見ても、幼兒保育の實際に携はつて居る者には心打たる、事ばかり、大方の御精讀を切にお奨めする次第である。(記者)

(東京神田區一ツ橋二ノ五、賢文館發行、定價壹圓五拾錢)

簡単な手技

及川ふみ

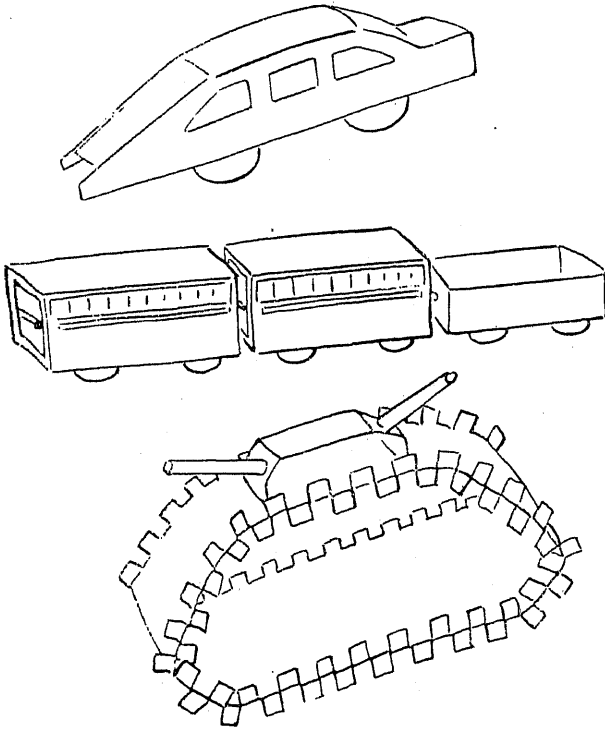
幼児たちが自分自身だけで、思ふ様に、紙を切り、糊をつけ、色を塗つて物を作つてゐる様子を眺めてゐるさ、ほんさに一心不乱で、これこそお仕事さ遊びさが完全にさけ合つてしまつてゐるのである。幼稚園の手技もこゝまで来るさ、幼稚園で手技をする意味も充分に達せられてゐるわけであつて、幼児もほんさに楽しく、面白く自分の遊びさして遊んで居るのである。

しかしながら幼児が自分の遊びさして、手技を充分に味ふさころまで導くには、なかなか容易の事ではない。保姆の方で、その指導の方法に充分の研究さ、自分自身にもその技の熟練さが大切であるさいふ事はいふまでもない。

大體平常幼児たちさ一緒に遊んで居るものさして、手技の種類や、之に入用な材料杯に就ても適不適は略ぼ分るものであるが、いつも幼児たちの要求にびつたりさするものばかり選ばれるさも限

らない様である。

幼児達の手技はさこまでも簡單なものであつてほしい。それにつけても材料は幼児に取扱のやさしいものがよい。その質が丈夫で、無器用に使つても、破損する事のないものがよい。又その大きさ、分量さいふ事も大事な事である。在來の手技の材料についても、こんなさこから自然さそこ



に優劣の差がついて来るものである。

こんな事から古端書を材料とした手技は幼児たちに大いに歓迎された。これは始めは、材料を節約するさいふ事からはじめてみた事であるが作るものが簡單であり、その大きさが手頃であつた事が最もよい材料となつた様である。

はじめ端書で、タンク、花カゴ、乳母車、舟、家、動物など數種類のもの、幼児たちの前で作つて見た。自分の作るのを見てゐたものは、傍にある端書で眞似て作り始めた。自分は一々説明するさいふ風でもなくたゞ一緒に作つてゐた。時々こゝはさうするの位の質問に應じる程度であつたが、次々見ただけで簡單に作れるのでよろこんだ。

次の日から各児が家庭から古端書をもらつて来て、次々種々様々なるものを作り出した。タンクなども自分が作つて見せたものよりも、はるかによいものが出来る。自動車も出来て来る、汽車も作るさいふ様で製作される種類も多くなり、形などもほんまにうがつたものが出来て幼児も樂しみ自分もうれしくなつた。幼稚園の端書も家庭の端書も大方便ひつくす位澤山にいろ／＼のものが出来た。

官製はがきは紙の質がよいので曲げたり、折つたりしても決して裂ける事がない。インクや墨で書いた文字のあきも、クレヨンや、繪具や墨でぬりつづせば綺麗になつて古物を利用した様にも見えない。

幼児たちが自分だけで作つた作品の二三をあげて見ることにする。

幼稚園の水

杉山米子

○初水

「先生ホラー！」「いゝものよオー」風をつめた朝である。後の焚火が樂しみの落葉かきの熊手をやすめて、聲に振向く、二三人の男の子が、もみぢの手を拜む様に顔の前に合せ、然も大切なものを其の中へ入れて居る様にかばひ乍ら、一寸小腰をかゞめてかゞで走つて来るのである。

うれしくて／＼たまらない様に遠くから白い息を見せて叫び乍ら、……其の氣持が自然に私の胸へ樂しく流れ込んで来て、「なーに？」と思はず走りよる。「ほら、水。お池にあつたの」先づ一人が得意氣にバツミ手をあげる。半ば水になつた中に滑る様にキラリミ光つた水！「まあ、本當に水ね、お池に張つて居たの？」「ウン、一杯い、ほら僕だつて……アラないやアー」今迄大事に合せて居た手をソット開いた子が、さも驚いた様子、否本當に驚いて、そして惜しくてたまらないと云つた氣持を語尾にひく。「まあお水になつて了つたのね、未だお池にあるかしら？」お池に行

つて見るに、もう子供達が其の可愛い手で、足で、充分堪能した後らしく、此の冬初めてのうすらひが、千々にくだけて弱々しい黄色の冬朝の陽ざしにキラリくゞ光り乍ら池の面に散つて居る。「まあきれい」思はず一ひら掬ひ上げると、かげらふの様な湯氣をあげて忽ち水になつて行く。

「僕にもさつて」「先生僕にもよ」差出す手の上の一ひらつづのせる。「誰のがサーキにさつてるか?」一人がふしをつけて云ふさ輝いた目が自分くの手を真剣に見つめる。私は溶けて行くうすら氷を透して、覗色にかじかんだ子供の手先を、又なく可愛いものさ見されるのである。「もう僕のなァーい」僕のは未だ少しあるよ、ね?」「けむが出てるね」「僕の氷、模様みたいな筋がついてるよ」「あ、僕のだつて、葉つばみみたいな模様だよ」子供同志の美しい話し合ひを後に、私はこゞへた可愛いもみぢが早く温められる様にさ急いで焚火の落葉をかきに行く。

○池の氷

「先生Aちゃんがお池に落ちちやつたの」

「えゝ?」此の寒い日に、さ云ふ心で驚く私の聲は、敏感な子供に忽ちうつる。それで御注進の子供は急いで私をなだめでもする様な調子で「だつて氷の上のつたのよ、だから落ちちやつたの」、まあ足だけでよかつた」さ考へ乍ら其の子さ一緒にやつて見る。困つた様な顔で、もうぬ

れた靴下を片方吊下げて居るAちゃん、さね? さうでせう?」さ云ひ度げに見上げるBちゃん、「あゝ一人で脱げたのね、今すぐ温い靴下ささりかへて上げませうね」今度こそ子供も安心する様な調子で云ふ。お部屋のスTEAMの傍で靴下を替へて居る時Aちゃんがのさかに云ふ。「氷ね、ミシッくゞ言つたのよ」傍からBちゃんが「バリッつて音がしたわ」又Aちゃん「お父様がね氷の上は歩いたり滑つたり出来るんですつて」さ云ふ。扱こそ私には、Aちゃんがお池に落ちる迄」を考へて思はず笑ふ。「さうね、もつさくゞ大きなお池で、もつさくゞ厚い氷の張るお池があるのよ」さここに?」さ聞いて居る瞳、黒い瞳。

○お飯事の氷

「先生、コーヒー茶碗が一つ足りないの」お飯事の小さいお母様が、お茶碗を探しあぐねて助けを求めぬ。「さう?」さここに行つたでせうね」戸棚の中、棚の上、そしておしまひにお窓の張出しにやつさ見付けた。所がさても素晴らしいお土産つき、昨日お水を入れたまゝお窓の外に忘れられたコーヒー茶碗の中にはゆふべの中にツルンくゞお茶碗の形其儘の水が出来て居た。「アイスクリームよ、之アイスクリームよ」お皿に入れておさじもつけるのよ」「私の食べた時ウェファーがついてたのよ」思ひ掛けない御馳走にお飯事は大賑ひ、其の中に、「先生お茶碗にお水入れてお窓

の所に出しておけば氷になるの?」「え、ゆふべの様に寒ければね」「先生シロップの氷も出来るの?」シロップは色紙の切屑(之が冬のおまゝ事の御馳走の王座を占める)をしぼつて色をつけた水の事である。「あゝ本當ね出来るかもしれないわ」思はず私迄むらゝゝ好奇心にかられた。そこでお飯事のお母様もお姉様も女中さんも赤ちやんも、お客様の私も、早速あるだけのコーヒー茶碗に、赤、黄、みざり、紫ミ、みりゝゝの色紙を夢中でしぼり出してお窓の外へ竝べたのである。

所がシロップの氷の後日譚は遺憾乍ら不成功の報告をしなければならぬ。其の晩が暖かつたせいか、混合物のお蔭で温度が降り切らなかつたせいか……でも子供は時々思ひ出しては「シロップの氷作りませう」ミ根氣よくお窓の外へお茶碗を竝べて居る。

○つら

つらゝ、きれいなこぼである。そしてきれいな其の姿である。幼稚園の池に落ちる小さな瀧には、さうかしてきれいなつらゝの出来る事がある。早速之を見つけた子供達には、つらゝ云ふ名前がなかゝゝ覺えられない。

「ね蠟石だよ、ホラね、かけるでせう?」

陽あたりの温まつた石壁の上につらゝで繪を描く子が居る。溶けてしたゝる水はさきれゝゝに蠟石のお役目を果

す。又いつか無口で大人しい女の子が珍らしく手に入れたつらゝを(つらゝは大抵朝早く来る元氣な男の子の所有に歸するのだ)、大切にハンケチに包んで、だまつてお辨當のバスケットへ入れに行つたのを見た。私もつらゝの溶ける事を、遂云はないでしまつた。其の子も、お辨當の時に見出したであらう溶けたつらゝの事は少しも云はなかつた。

○幼稚園の氷

幼稚園の氷の事を書いて居るミ、次から次へミ盡きないものがある。そして、氷が、あの冷いゝゝ氷が、幼稚園の冬の朝をみんなにかゆたかに楽しくして呉れる事を今更の様思ふのである。

月刊「幼児の母」の計畫に就て

—御賛同を御利用を乞ふ—

日本幼稚園協會 倉橋惣三

「幼児の教育」に「幼児の母」といふ一種變つたページのあらはれたことは既にお心づき下さつたと思ひますが、これから毎號つゞけてゆきます。

幼稚園が幼児への直接の保育を任務とすると共に、母の教育者、家庭教育の指導機關としての使命をもつべきものであることは、豫て練りかへし本會の主張し來れること、又、皆さまの強く御自覺になつてゐるところであります。

そのためにはいろいろの方法もあり、現に皆さまも、いろいろにお力を注いでゐられること、信じます。月刊「幼児の母」は、その小さき一助ともなり度く、皆さまに活用して頂き度くて、生れ出たものです。

一應は「幼児の教育」の頁内に掲載しますが、これを御覽下さつて、皆さまの御園の保護者に頒つ御趣旨を以て本會へ注文いたゞきたいのです。するに、本會はその御注文の部數通り抜刷りにして、實費を以てお送りします。それは可愛らしい四頁の母の新聞さいつた獨立の形になつて、お手

許へ参ります。そして、お手許から母達の手に渡るのです。世には、母のための読みものもいろいろありますが、幼児の母といふ特定の意味をもつものとして、更に、それが、我子の幼稚園から配られるのですから、母の特別の注意をひくことを疑ひません。その上、立讀みしてもすぐ讀み切れる四頁です。忙しいお母さん方にも親しみ迎へて貰へるでせうと思ひます。

實は、こういうものがほしいが、園々で小部數印刷するのも手數であるといふお話を、像で方々から聞きます。此の計畫は、つまり、そういう方々のための御便利をはかるものも申してもよろしいのですが、本會としては、更に、一園でも多くに御すゝめして、之れによつて、我國の全家庭に、幼児教育の促進と刷新を圖りたいと、熱望し切願して居る次第であります。小さい仕事ですが、お力をおおはせ下さい。

○月刊「幼児の母」頒布規定

- 一、毎月の注文を切を十日とします。(一月は十五日)
- 二、部数、送り先きを明記して、代金と共に御注文下さい。尚「幼児の母」代金なる事を必ず御附記下さい。振替にて御送金の方は本會着迄に比較的多くの日数を要しますから御急ぎの時は爲替の方御便利です。十五日に發送します。(一月は二十日)
- 三、御注文は十部を一單位として、實費を左の通り申受けます。

○十部 金貳拾錢

○送料 十部まで三錢

二十部以上送料不要

○十部以下の端数はおこわりします。

- 五、本計畫の趣旨に全幅の御賛同を下さつて、一ヶ年分を豫約御注文の場合は、事務上最も好都合であります。實はなるべく、さういふ御豫約を多く得たいのであります。途中からでしたら、本年十二月までの計算でお申込み下さつて結構です。

- 六、毎號は、號数を附せず、月順にだけして置きますから、その月の分から御利用下さつても、又、或る月だけの御利用でも、端號さいふやうな形にはなりません。但し、毎月つゞけて利用して下さることを望ま

しいことで、さういふ方々のために、毎月に整理保存のための綴り孔をつけて置きます。

- 七、更に甚だ立入つたことですが、御利用の仕組について念のため附記して置きます。即ち一寸氣のつきますだけでも、(イ)幼稚園が保護者に無料配布する場合。(ロ)實費を保護者の銘々の負擔とする場合。(ハ)幼稚園内保護者會或は母の會等が費用を負擔する場合。なきそれ、御便宜次第であり得ませう。

「幼児の母」の第一の主旨は、現に幼稚園にある幼児の家庭教育に貢獻したいのでありますが、或は之れを以て、幼稚園外の家庭に廣く働きかけて、幼児期教育の主要性を宣布し、ひいては、幼稚園の正しき意味での宣傳にも用ゐられ得るを考へます。たゞせば、二月、三月號は、幼稚園の理解をすゝめる意味を中心として編輯したいと思つてゐますが、それは、現に幼稚園保護者である家庭にも必要であると共に、入園期の幼児を有する家庭に向つて、廣く配布したいところのものでもありません。

尚ほ「幼児の母」の御注文は東京市小石川區大塚町、東京女子高等師範學校附屬幼稚園内、日本幼稚園協會へ。

幼児の母



昭和十五年

一月

祝 皇紀二千六百卅

大切な我子の幼児期

倉橋 惣三

親の何よりの願ひは、我子のよき成長です。一日も早く成長させたいのが親の望みです。しかし、あすの成長はけふの充實がなくては出来ません。發達は順々です。よき今からのみ、よき次が得られよき後が待たれるのです。ですから、我子の發達を充分にさせるためには、その初めが何より大切です。

お子さん方は、その大切な初め、すなはち幼児期にゐられるのです。今の身體

が注意せられないで、將來の健康をどうして得られませう。今の心柄がよく導かれないで、眞實の性格がどうして作られませう。ほんとうに、今の幼児期こそ、あなたのお子さんの一生のため一番大切な時です。

美しい花を咲かせよう、よき實をならせようとは、誰れでも希望する事です。

しかも、根を大切にし、芽をよく育てる人だけに、その希望が成就します。

子どもの癖

くらはし

悪い癖は無いがよい。良い癖はあるがよい。良い癖はその癖の良いためにい、ばかりでなく、それを、きまつてするといふ處に教育的なうちがあります。そこで、そんなにあれもこれもといつては、無理にもなりません。食事の前にはきつと手を洗ふなんていふことは、傳染病の豫防にもなるし、きまりの習慣の一つにもなる。その位、厳しく勵行してもいいでせう。殊に、幼稚園ではお辨當の前に必ず手を洗はせてゐます。一日に一回だけでは、良い習慣にもなり兼ねませう。幼稚園で日に一度洗へば澤山だなんていはないで下さい。折角の一度が、二度の「洗はない」で、洗ひ流されて仕舞ふでせう。——序に、子どもの良い癖は、子どもにはかりさせるのは、むづかしいことです。食前の手洗にしても、お母さまが先づ、母の良習慣とすることですな。

神武天皇さまのお話

—お母さまからお子さんへ—

石井 庄 司

日本の第一代の天皇は、神武天皇と申し上げます。神武天皇が大和の國の橿原^{かしはら}で、天皇の御位にお即きになつてから、今年でちやうど二千六百年です。大昔のことです。

神武天皇は、九州の日向の國にお生まれになりました。天皇はお生まれつき、大層御剛巧なお方で、しつかりとしていらつしやいました。ぐんぐん大きくお成りになりまして、御年十五のとき、皇太子とお成りになりました。そして高千穂宮においでになりました。

むかし瓊々杵尊といふ神様が此の高千穂宮にお降りになつてから、すつと日向の國においでになりましたが、そこはあまり端の方に片寄つてゐるので、天照大神からお任せを受けてゐる、この日本の國をお治めになるには、御都合がよくな

い。そこで天皇は、お兄様方と御一しよに、日本の國の眞中の大和の國へお移りにならうとして、船に乗つて日向の國へ御出發になりました。

速吸の門^{はやすくのみかど}といふ處にお出でになりま

すと、一人の漁夫が小さい舟に乗つてやつてきました。そこで天皇は、「お前は誰だ」とお尋ねになりました。「私は此の國の神で、名は珍彦と申します」と答へました。そして神様の御手様がお出になると聞いてお迎ひに参つたと申しました。そこで珍彦を椎根津彦と名を改めて、お伴となさいました。

天皇はお船に乗つてぐんぐんと東の方へお出でになりました。そして長い間かゝつて今の大阪のちかくにお着きになりました。それから川をさかのぼつて、大和の國へお入りになりました。

寒い冬のお辨當

榮養研究所 佐々木理喜子

お辨當のおさいに困ると仰るお母様は澤山ありますが、榮養的に考へてごんな食物を取合せといふか困ると云ふお言葉は餘り伺ひません。焼魚だけ、炒り卵だけ、お豆だけのおさいは成分が一つに偏りますから餘り感心出来ません。是等に適當な野菜を添へて汁氣の出ない様には、鱈節粉か煮干粉の様な動物性蛋白質を中に加へる様にし、寒い時には體の温まる様に油を調理に用ひ、又油揚の様な物も時には使つて下さい。次に五歳乃至七歳を標準に申述べます。御飯は七分搗米無砂搗一食分五・五勺、おさいは蛋白質八・三瓦、温量一〇〇カロリーと致します。(瓦の約四分の一は芻に當ります)

①いり豆腐

材料 ゴマメ二〇瓦 豆腐四〇瓦 人参三〇瓦 ホウレン草二〇瓦 油五瓦 以上で蛋白質八・八瓦、温量一〇二カロリー

その頃、大和の國には、長髓彦といふ賊がゐて、神武天皇に手向ひしました。その中に、天皇の御兄様の五瀬命は、賊の打つた矢に當つてお傷をなさいました。そこで神武天皇はお考へになりました。

「自分は日の神の子孫であるのに、今日お日様に向かつて攻めてゐるからいけないのだ。すつと向ふへ廻つて、お日様を背負ふやうにせねばならぬ。」

といふので、急に方向を變へて、ぐるつと遠廻りをして、熊野といふ處へお出でになりました。そこから山の中を通つて大和へお出でにならうとなさいました。

ところが道も無いけはしい山の中で、木は一杯に繁つてゐますので、どちらへ行つてよいやら、少しもわかりません。天皇もお困りになつておいででした。す

ると、或晩のこと、夢をこらんになりました。夢の中で、日本の神様の一番始めの神様である天照大神が現れておいでになりました、そして

「自分はいま八咫鳥といふものを使につかはすから、これを道の案内者とす

るがよい。」

と御つしやいました。すると、あくる朝夜が明けますと、高い高い天の上から、カア、カアと八咫鳥といふ大きな鳥が飛んで來ました。その八咫鳥を道案内として、木を伐り倒し、道を切り開いて進んでおいでになりました。此の八咫鳥は、今は神様として立派なお宮におまつりしてあります。

天皇は、八咫鳥の案内で、大和の宇陀といふところにお出でになり、それから兄猾・弟猾といふものや、また兄磯城・弟磯城といふものをもお治めになりみなお伴となさいました。それから愈々長髓彦といふ賊の大將を討ち取らうとなさいましたが、長髓彦は仲々強くて、容易に降参いたしません。

長髓彦の軍勢と戦争をしていらつしやつたときのことです。急に空が眞暗になつて、バラ／＼と雹といふものが降つてきました。そのとき、何處からともなく一羽の金色をした鴉が飛んできて、天皇の持つていらつしやる弓の先にとまりま

【調理法】 お正月に食へる硬いゴマメは子供には困りますので、生のものを少量の水に浸して煮げ一匹を五つ位に切り、此の水でよく煮ます。人參は卸し、ホウレン草は細く刻んで一緒に油で炒め、水氣を絞つてよくほぐした豆腐を加へ、ゴマメも入れ、砂糖、鹽、醬油で味付けて汁氣のない様にいり豆腐を作ります。此れはホロ／＼しますから、スパーンを忘れずにお辨當に添えて下さい。

②きりぼし大根の煮付と粉ふき芋

材料 切干大根一五瓦 油揚八瓦 櫻えび一二瓦 馬鈴薯三〇瓦
以上で蛋白質八・三瓦 温量一〇
六カロリー

【調理法】 細長い線になつた切干大根は食へにくいので、水に浸して軟くしてから一寸位に切り、漬けた水で軟く煮ます。油揚は五分位に織切り、大根に混ぜて砂糖、鹽、醬油で普通に味付け、きれいにした櫻えびを加へて汁氣のない様に煮付けます。馬鈴薯は常の様に粉ふきにして添えます。又軟くしてから、砂糖と鹽で甘く味付けてもよろしいと思ひます。

した。その鴉はきら／＼と光りかゞいて
まるで稲光のやうです。それを見た賊の
兵隊はみな目がクラ／＼と眩んで、手向
かひをすることが出来ません。そこで天
皇の方の軍は大勝利となりました。いま
兵隊さんのお附けになる金鵝勳章といふ
のは、このめでたい大勝利を祝つてお送
りになつたものです。

まだ大和の國には、あちらこちらに賊
のものが残つてゐましたが、長髓彦がと
う／＼降参したといふので、すつかりし
づかに治まりました。そこで天皇は、畝
傍山の東南のふもと、橿原といふところ
がわが日本の一番の眞中であるといふの
で、其處に御殿をお建てになり、色々の
お祭の御用意をなさいまして、初めて、
御即位の御式をなさいました。それが辛
酉といふ年の一月一日でありました。そ
れが今の暦になほしますと、二月十一日
になります。それが紀元節です。橿原とい
ふところは、今は立派なお宮が建つ
てゐます。皆さんは大きくなつたら、ぜ
ひお参りいたしませうね。

かぜを引かせぬ用心

—冬の衛生—

醫學博士 廣 瀬 興

子供に風を引かせぬ様にすること、即
ち、冬多い氣管枝カタル、肺炎等にかゝ
らぬ様にするには、何よりも一般の健康
上の躰げに必要なことです。それは急に冬
になつて始まることではありませんが併
し今からでも遅くはありませんから次の
様なことに注意して、萬病のもとである
風邪にかゝることを豫防して下さい。

(一)榮養、好き嫌いを云はせず何んで
も食へさせ殊に油濃いものを與へる事、
毎年風邪引き易い子、シモ焼けの出來易
い子には肝油を與へること。空腹で夕方
遅くまで戸外で遊ばせぬこと。間食も次
の食事の二時間前位に充分與へること。
(二)戸外の運動、冬室内ばかりで遊ば
せて置くと猶風引き易くなります。勉め
て戸外で遊ばせ日光に充分當てること。
(三)皮膚の鍛錬、入浴後や更衣の時に

柔い手拭でよく皮膚を摩擦してやる事。
薄着の習慣が必要ですが手首や足首の所
をく、れる様にして體に密着しないダブ
／＼の空氣の層が體の周りに充分ある様
な衣服が最も良いので、それなら薄着を
させて置けます。毎日清潔な寝衣に着更
へさせること。入浴はすき間風の入らぬ
様にして成るべく度々させ皮膚を清潔に
して置く方が却つて風引きません。

(四)暖房、木炭や練炭の火鉢、煙突の
ないストーブに長時間あつてゐると一
酸化炭素の慢性中毒のために風引き易く
なります。

(五)若し水鼻をたらしたり、咽がかれ
たり軽い咳をしたりしたら、頸部に熱い
湯の濕布、普通のコップに二匙の硼酸を
入れた位の溫水の吸入をすること。少し
熱ばいときはアスピリンを飲ませて看る
こと。それ以上の容體の時は醫前に診て
もらはねばなりません。

幼時の追憶

その三、大洲にて

幻の園

大洲のお祖母さんの隠居部屋は土蔵であつた。こゝは幼い私にまつても心強いお城であつた。養母に叱られたりするこゝ、すぐ逃げ込み、また訴へるこゝがあるこゝ、飛んで行つた。南に高い窓が一つあるきりで、今考へてみるこゝ可成り薄暗かつたに違ひないが、お祖母さんは老眼鏡をかけ、冬なご真綿の袖無しを着て、よく針仕事をしてゐられた。もちろんおこたもあつた。私はおこたに近づくやうなこゝがあるこゝ、きまつて、「子供は風の兒、風の兒」と言つて追拂はれた。新しい父も母も優しい人であつたが、お祖母さんはもつこ優しかつた。母はごちちらかご云ふご少しギススイ人のやうであつた。私は生母に甘えた記憶がない。この母に對しても同じで、幼い私はいつもお祖母さんに抱かれて寢てゐた。前に述べた宇和島のお祖母さんは氣位の高い人で、子供の近寄りにくい老人であつたが、この大洲のお祖

曾根保

母さんは、お伽噺に出て来る、優しい善いお婆さんであつた。白髪頭の上品な、代表的な老人であつた。それに父が大變孝行な人で、この祖母さんに對して、物靜かに、禮儀正しく話をしてゐられるのを見て、幼い私も自然にお祖母さんを偉いお方だご敬つてゐた。今想ひ出しても、私はこのやうないゝお祖母さんを持つてゐたこゝを嬉しく思ひ、また同時に、その有難さが言ひ盡せないのを眞に残念に思ふ。

お祖母さんは病氣を知らない人で、天氣のよい日には大抵龜山の向ふの山へ仕事に行かれた。廣い畑の斜面の中程に山小屋があつて、正午には自在の眞黒に煤けた藥籠に湯が沸いてゐた。「兵三や、もう櫛を探らななるまい」なご言はれるご、次の日曜には頬かむりをした父の姿が高い木の上に見られた、平生その木に近づくご「まける」から近寄るなご戒められてゐたが、その恐るべき木の上で平氣で仕

事をしてゐられる父を仰ぎ見て、全く不思議な感じに打たれた。漆に「まけた」人を見たことがあから、その感じは一層深かつた。櫛の實、あのからからになつた感じの、しかも重い、つるつるする黄色い櫛の實、父の籠にはいりそこねた一房、二房を、その木の下で拾つてあげたが、父こ



子が、晴れた青空の下で、何の心配もなく、陸まじい日を過すこの出来たあの遠い昔は、今の私にこつてこよない貴い思ひ出である。シヰリは『雲雀』の歌の中で、

そのかみ偲び、未思ひ、

母（向つて左）

あらぬを傷み焦るゝよ。
いと真なる微笑にも
憂き煩ひはひそめるよ、
いみじき歌も悲みの

思ひを語るそれなれや。

ミ歌つてゐるが、それは普通一般の浮世のならはし、優しい父や祖母に守られて過したその頃の幼い私は、幻の花園に生ひ立つ若草のやうで、やがては「この生、荆棘の中に落ち、朱の血に染む」我身ではあつたが、たまへ暫しにせよ、暖い光に満ち充ちた世界が私にもあつたのである。

東京の郊外で、背の高い桑の木が二三本の藁に程よく枝を縛られて突立つてゐるのを見るミ、背の高い父が、腰の荒繩に少し濡した藁を挟んで、廣い桑畑の中を次々に、しやちこばつた枝を縛つてゆかれる姿を眼の前に浮べるこことが出来る。一日の仕事を終へて、鍬や鎌を山小屋に片付け、焚木や大きな荷物父が擔ぎ、眞黒な藥罐を祖母が提げ、私にも何か持たせて貰つて家に歸つて来る。何處かで讀んだ佐藤春夫の詩を想ひ出す――

武藏野の

片ほごりなる片丘に

湧き出づる泉もありて

杏の樹あまた植ゑつけ

父ミ子ミ睦みて住まむ

幻の杏花村舎の

楽しくもあるか。

生薑漬を盗む

土藏の二階は恐しくて一人では上つて行けなかつた。鼠

が澤山ゐるて、古い大きな米櫃には

時々青大将がミぐるを巻いてゐた

さうである。一度、裏の人が長い

青竹の先に縄で輪をこしらへ、そ

れに青大将を巻きつかせて川に流

したことがあつた。黒山のやうな

人だかりが橋の上から青大将を見

送つた。竿の先に捕へられた大き

な蛇が、きらきらする水の上で輾轉して、次第くく小さ

くなつて行つた。

階段の下が戸棚になつてゐるが、こゝに大きなガラス瓶

があつて、生薑漬が一杯詰めてあつた。お祖母さんのお手

製であらう。私は二三枚取出して食べてみた。だだつ廣い

土藏の中で、甘い物を發見した喜び、それを許可なくし

て失敬する恐怖ミがこんがらがつて、幼い私は言ひやうも



土藏の木ノ抽

ない興奮を身に覺えた。おいしくて食べるのではなかつた。いくら砂糖漬でも、まだ生薑漬の味に興味を覺える年頃ではなかつた。たゞ何ミなく、留守居のさびしささいつたやうな氣持から、一枚二枚ミ失敬してゐた。盗んで食べてゐるさいふぼろ罪を感じてではないが、お祖母さんが、それに氣がつき、何かお小言でも言はれはしないかミ内心びくびくしてゐた。お祖母さんが戸棚の前に行かれるミ、私は眼

をそむけるか、土藏の外に飛出して、知らぬ顔の半兵衛をきめ込んで、一向に氣が付かれないので、却つて心配し出した。そのうち私の目にも生薑漬の減るのが目立つて來た。何ミしてもたゞでは濟まないやうに思はれ出した。それにも拘らず、毎日生薑漬は減つて行く。しま

ひに、さうたう瓶の底まで行つてしまつた。その間に、お祖母さんは唯の一度も生薑漬のこみは仰有らなかつた。もし口に出されたにしても恐らく、「大方頭の黒い鼠がひいて行つたのだらう」ミに「こに」こしてゐられたであらう。「頭の黒い鼠」ミいふ言葉はこの祖母さんから聞き覺えた言葉であるミ同時に、これが「盗み食ひ」をする味を覺えた最初であるやうな氣もする。さても悲しいこみではある。

お祖母さんはオハグロをつけてゐられた。錆びた鐵の鉢には見るからにきたらしい液體がはいつてゐたやうである。曇つた鏡を又木になつた鏡掛に載せて、丹念に齒を染めてゐられた。また時々糸を紡いでゐられた。片手で車を廻しながら、プーイ、プーイミ手つき良く竹の管に糸を巻いてゆかれるところ、また糸の先を一寸なめて管に投げつけられる手際なき、私は感心して見入つたものだつた。もうあのやうな昔の様は見られなくなつて了ふのであらう。これから後の世のお婆さんの仕事さいふのはこんなことになるのかしら。田舎では、まだ昔のまゝの日常生活が残つてゐればいゝが、そんな風に變つたのか今の私には想像もつかない。

おやいと

私は今之を書きながら、右の食指の第二節にある灸の跡を見てゐる。これが何時の頃の記念のものか、想ひ出さうと、なかなか想ひ出せない。大洲に来る前、村の舊校舎の前の、貧しい人の子供に石をぶつけて逃げて歸つたところがある。舊校舎は製茶場であつた。私は今春、牧野原の茶園を見學した時、あの茶の強い香の中で、屈強な人々が茶をもんでゐるのを見て、今迄つひぞ想ひ出したこともなかつた幼時の或る日をふと想ひ出した。即ち舊校舎で村の若い男女が威勢よく働いてゐる光景がまざまざと蘇つて來

た。と同時に、舊校舎の角の家の子供に石を投げつけて、母親に怒鳴り込まれた夕べの恐しさをも想ひ出した。しかし、この時母は、いとも恐縮して謝罪してゐられたが、お灸はすえられなかつた。するさ、やはり、大洲の母から頂戴した貴重な形見であらうと思はれる。あゝこの人差指のやいさ！大聲で泣きわめく男の子を押へつけて、お祖母さんが引止めるのもかまはず、殘酷なことを敢てせられた第二の母！あの優しかつた母も今は此の世には在さず、やいさの跡を見てゐるミそゞろに淋しさがこみ上げて來る。

(つゞく)

世界中で唯一人

美しい空の何百さいふ星

濱邊に集まる何百さいふ貝

歌つて過ぎる何百さいふ鳥

晴れた日に飛ぶ何百さいふ蜂蜜

夜明けを迎へる何百さいふ露

紫のクローバの中の何百さいふ仔羊

芝生の上の何百さいふ蝶

けれども世界中でかあさんは唯一人

——チヨーチョークローバ——

ハイ デイ

(第二十二回)

津 田 芳 雄 譯

二十、お手紙

五月になつた。峯々からは春の水が谷々に注ぎ込み、青々とした山の上には、あたたかい晴れた日の光りが照り輝いてゐた。一等おしまひの雪も消えてしまひ、日の光りに、澤山の花が草の上へ首をもたげて來た。山の上ではさわやかな春風が椈の木の枝を吹き抜け、古い葉つばを落して新芽をかざり、もつと高い所では、大きな鳥が青空に輪を廻がいて飛びまはつてゐた。

山の上のおぢいさんの小屋にもお日様はキラキラミ照らし、あたりの地面も雪がすっかり乾いてゐた。ハイデイは又ここに歸つて來て、大よろこびであちこちミ跳ねまはつてゐた。時々急に立ち止まつて、峯々を吹きわたつて來るものさびた深

い風の音に耳をすまし、それが椈の木に吹きつけて、枝をたわめ、幹をゆすつて鱗波きの聲をあげてゐるのを見てるるミ、ハイデイはからだが小さくて羽のやうに吹き飛ばされながらも、うれしくなつて、こころゆくまでこの歌に聲を合はせて叫ばないではゐられないやうな氣がするのだつた。

それから又小屋の前に走つて行つて日なたに坐り、生えかけの草の中から花がいくつ咲いたかミ、かがみ込んで探すのだつた。數しれぬ小さな甲蟲やそのほかの羽蟲が、這つたり躍つたりしてゐるミ、一緒になつて跳ねまはり、新しい土の香りを胸一ぱいに吸ひ込んで、お山がせんよりかすつときれいになつたミ思ふのだつた。まはりに飛んでゐる蟲たちも、きつとおんなじ位うれしいのだらうミ思ひ、ハイデイにはその蟲たちのぶん

ぶんうなつてゐる聲が、「やまのうへ、やまのうへ」ミ小さな聲で歌つてゐるやうに聞えた。

裏の物置きの方からは、鋸や鉋の音が聞えて来た。それは一番はじめここに来た時からの馴染深い音なので、ハイディはなつかしさうに耳を傾けた。するそ急に、おぢいさんが何をこさへてゐるのか見たくなつて、飛んで行つた。物置きの戸の前には、もうちやんミ出来上つた椅子が一脚おいてあり、おぢいさんは器用な手付きで、二脚目を作つてゐるミころだつた。

「わかつたわ、これフランクフルトからお客さまがいらした時に使ふのね。これがおばあさまので、今こさへてるのがクララのね。それから、——それから、ほら、もう一つ要るのぢやなくつて?」

ハイディは口ごもりながら、つづけた。

「——ねえ、おぢいさん、でもロッテンマイアさんは、たいてい來ないわねえ」

「さうぢやなあ、わしには何さも云へんが、まあ拵へミいた方が、安心は安心ぢやなあ」

ハイディは、腕のよりかかりもない粗末なその椅子をしばらくぢつミ見つめて、ロッテンマイア

さんミこんな椅子が、似合ふかしらミ考へた。大分考へてるたが、頭を振つて云つた。

「おぢいさん、わたし、ロッテンマイアさんは、

こんな椅子には掛けないミ思ふわ」

「それぢや、きれいな青い芝生の羽根ぶさんの寢椅子にでも案内するさ」

ハイディが何のこみかしらミ考へ込んでゐるミ、上の方から口笛ミざわめきが聞えて來た。すぐハイディは聞き知つて、走つて行つた。見る見る四本足のお友達に取り圍まれてしまつた。山羊たちも、ハイディミ同じ位、春になつて又山の上のぼつて來たこみを、うれしがつてゐるやうだつた。てんでに、跳びまはつたり、うれしさうに啼き立てたり、ハイディをあつちこつちミ押しやつたり、さうにかしてこの悦びを表はさうミ、甘つたれるのだつた。ペーテルはそれを追ひ拂つて、やつミハイディの傍にやつて來て、

「ほら」ミ一通の手紙をわたした。

「まあ、山の上で誰かがこれをあなたに渡したの?」

ハイディはペーテルが何の説明もしないので、わけがわからず、びつくりしてたづねた。

「ううん」

「ぢや、どこから持つて来たの？」

「お辨當袋に這入つてたんだ」

——それも、まんざらの出たらめではないのだつた。ハイディ宛ての手紙を、昨夜ペーテルはデルフリ郵便屋さんから頼まれて、空つぽのお辨當袋に入れておいた。その上へ今朝パンミチーズを押し込んだので、おぢいさんの二匹の山羊を連れに來た時も、すっかり忘れてゐた。おひるにパンミチーズを食べてしまひ、もうかけらでも残つてゐるやしないかミ底を探した時、やつこその手紙を見つけたのだつた。ハイディは注意深く宛名を讀むと、大よろこびで物置きへ駆けもぎつて、おぢいさんにお手紙を差し出した。

「フランクフルトから來たのよ！ クララからなのよ！ 讀んでみませうか」

おぢいさんは悦んで聞いた。ペーテルもついて來て、物置きの柱にもたれ、後によりかかりがある方が、意味がよく聞き取れるやうな氣がして、熱心に耳を傾けてゐた。

大好きなハイディちゃん

用意はもうすつかり出來て、もう二三日して

お父さまさへいらつしやれるやうになれば、すぐに出發するのよ。でもお父さまは、あたしたちと一緒にやなくて、はじめバリにお寄りになるの。お醫者様は毎日いらしつて、お部屋へ這入るなり、「さあ、早く山へいらつしやい、出来るだけ早く」もいつも仰しやるの。早く行かせたくつて、待ち切れないやうよ。お山であなたも暮らしたのが、とてもとても樂しかつたのでつて。この冬ぢう、おほかた毎日くらゐうちへ見えて、その度毎に、「もう一べんお話ししてあげませうね」も云つては、あなたやおぢいさんと一緒に遊んだことや、お山や、お花や、人里離れたしづけさや、さわやかな空氣のお話をして、それからきまつて、「あそこにあるては、丈夫にならないぢやゐられないんですからな」つて仰しやるのよ。御自分も山から歸つていらしつてから、人が變つたみたいに、急に若々しくおなりになつたわ。ああ、いろんなものが早く見たいわ、あなたと一緒にお山に登りたいわそれから、ペーテルや山羊たちもお友達になりたいわ、ほんたうに樂しみだこも！

あたし、はじめの六週間は、ラガツ温泉で養

生しなきやならないの。これはお醫者様の御命令よ。それからデルフリへ行つて、お天氣のいい日に椅子でお山へ連れてつてもらふの。そして、いちんちあなたと遊べるわね。おばあさまも、あなたに逢へるのを楽しみにしていらいつしやるわ。それからね、さても面白いところがあるのよ。ロッテンマイアさんは、行かないのですつて、おばあさまが毎日のやうに、「スキス行きはさうしますね。もし行きたければ、遠慮なく仰しやいよ」さおたづねになるさ、その度に「御高配のほご重々ありがたうございますが、失禮させていただきます」なんて、さても畏まつてこころわるのよ。あたし、これさうしてだか知つてるの。セバスチャンが、お山のこころをさても怖ろしさうに話して脅かしたからなのよ。岩が危つかしく突き出てるで、一步踏みはづせば千仞の谷に落つこちるだの、坂が険しくて一足毎に割れ目にすべり込みさうだの、山羊でもなければ命の心配なしにあんな所を登れるものでないのださ話すので、ロッテンマイアさんはすつかり怖氣を震つて、それまでさても乗り氣だつたスキスに、急に熱がさめてしまつたの。

ティネットも震へ上つて、やつぱり行かないことに決めたわ。だから、おばあさまさあたしと二人つきりない。よセバスチャンがラガツ温泉まで送つて来るの。

ああ、待ちさほしいさ。では大好きなハイディちゃん、さようなら。おばあさまからもくれぐれもよろしくつて。

あなたの仲よしの

クララ

お手紙が終るさ、ペーテルはよりかかつてゐた柱から身を起し、ものすごい勢で鞭を振りまはしながら駆け出した。山羊たちがおびえて散り散りに逃げ出すさ、ペーテルは又もそれを追つて、脅かすやうに鞭を振り立てた。フランクフルトから又大勢お客さまが来るさいふので、むしやくしやしてたまらないのである。ハイディはうれしくてうれしくて、明日になったら早速おばあさんに、大好きなクララとおばあさまが来て、こわいロッテンマイアさんさティネットが來ないさ話を話してあげようさ、楽しみだつた。おばあさんにはしよつちうその人たちのお話をしよあげたから、みんなお馴染の人たちなので、きつさおばあさんが喜ぶだらうさ思つたからである。

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長 下村 壽
 主幹 東京女子高等師範學校教授 倉 橋 惣 三
 附屬幼稚園主事

日本幼稚園協會規則

- 第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス
- 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス
- 第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ク
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ
- 第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ
- 第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得
- 第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
 - 一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
 - 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習會ノ開催

- 會ノ開催
 - 一、雜誌發行(毎月一回)
 - 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
 - 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
 - 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件
- 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 - 會長 一名 會務ヲ總理ス
 - 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
 - 幹事 若干名 務ヲ分掌ス
 - 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス
- 第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
- 第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ケ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス
- 第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ
- 第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

定價

一ヶ月分	金參拾五錢	特等面	一頁二面一頁
半年分	金貳圓拾錢	金貳圓	拾圓
一年分	金四圓貳拾錢	金拾圓	拾圓
拾貳冊	送金四圓貳拾錢	金拾圓	拾圓

（外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい）

昭和十四年十一月二十八日印刷納本
 昭和十五年一月一日發行

幼兒の教育 第四十卷 第 號

不許複製 轉載

東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
 編輯者 倉 橋 惣 三
 發行所 柴 山 則 常
 東京市本郷區駒込林町百七十二番地
 印刷所 杏 林 舍
 東京市小石川區大塚町三十五
 東京女子高等師範學校附屬幼稚園內

發行所 日本幼稚園協會

振替口座東京一七二六六番

定規文注

- 一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます。(對券代用の場合には總て一割増)
- 一、御送金の場合には、振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
- 一、送金の節には、第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし、は別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
- 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
- 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

大阪市幼稚園共同研究會第六區御編纂

構成を分ち
主としたる
幼稚園遊戯の保育要諦

全 二 卷

第一卷 動作集 定價金三圓
第二卷 曲譜集 定價金二圓

體裁 四 六 倍 版
總クローズ厚表紙本綴

幼稚園に於ける遊戯が、幼兒の自由な生活活動に重きをおき、之を適切に誘導し、唱歌遊戯、模倣遊戯及び競争遊戯を加へて、幼兒をして興味の中に自ら心身の發達を促進さすべきものであります。その多くは單なる方法上の練習や、歌詞による方便的身振動作に終始し、或は偏運動に、又は觀覽効果を狙ふ等、教育的價値の疑はしきもの多きを遺憾とし、大阪市幼稚園共同研究會第六區の所屬十一園の研究部員諸氏が眞摯なる研究に破頭すること實に二年有半の日子を費して成つたものであります。

遊戯運動の構成、その發展的系統配列、並にその指導上の注意に至るまで、遊戯に於ける幼兒保育の要諦は之を悉く網羅してあります。

所 行 發

食館レベール社株式

本社 東京・神田・二町保神 電話(33) 三六八二番
支店 大阪・東區・後備五町 電話(24) 三九八三番

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
毎月五回發行

昭和十四年十二月二十八日印刷
昭和十五年一月一日發行

定價參拾五錢